

## 18. 感染症情報センター

### センター長 岡部 信彦

#### 概要

平成9年4月国立予防衛生研究所は「国立感染症研究所」と名称変更になり、それまでの感染症疫学部は発展解消し「感染症情報センター（初代センター長・井上栄博士）」が発足した。主な機能は、1) 感染症サーベイランスデータの集計、感染症情報の収集、解析、その情報の国民への提供、2) 外国の感染症機関との情報交換、3) 感染症集団発生の疫学調査、およびそれを実行する専門家の養成、4) 感染症予防制圧戦略の研究および提言、5) 不明病原体に関する検索並びに研究、技術伝達、等である。

平成11年4月に施行された感染症法では、サーベイランスシステムの強化が示されている。同法に基づいた基本指針の中には患者発生状況サーベイランスと同様に病原体に関する情報の収集、分析及び提供と公開も必要であるとされている。感染症情報センター(IDSC)は、国のサーベイランス事業の中で中央感染症情報センターとして位置づけられ、地方感染症情報センターならびに都道府県等の協力を得て、感染症法に規定された1-4類感染症(平成15年11月1-5類に類型が変更された)を中心にしたサーベイランスを行っている。病原体情報については WISH Net、IDSC ホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)、病原微生物検出情報(IASR)を中心として、疾患の発生動向については感染症週報(IDWR: Infectious Disease Weekly Report)などを中心として、収集された情報の迅速な還元と公開を行っているところである。血清疫学調査としては、感染症流行予測調査事業の中でこれを行っている。このデータ等を基礎とし、感染症対策の重要な一角としての予防接種のあり方についてのエビデンスを求めることも IDSC の重要な業務である。

感染症発生への適切な対応の一環として実地疫学の重要性が理解されつつあるが、これにかかわる人材の育成は急務である。感染研では業務の一つとしてこの人材教育(実施疫学調査専門家養成コース(FETP))が行われているが、研修実施の主体は IDSC が行っている。

情報センターは現在以下の6室で分担し、業務研究を行っている。

#### 第一室（感染症対策計画室：谷口清州室長）

国内外における感染症の流行、集団発生・異常集積時の疫学調査、感染症対策のための計画立案とそのための研究などを行っている。ことに積極的疫学調査、これに関わる感染症実地疫学専門家の養成を行っている(Field Epidemiology Training Program)。院内感染対策も一室のテーマとしている。

#### 第二室（感染症情報室：木村幹男室長）

地方感染症情報センターならびに都道府県等の協力を得て国内感染症サーベイランスデータの収集・分析、及びその結果の還元と提供及びそのための研究を行っている。感染症情報の還元、提供は、感染症週報(IDWR)、病原微生物検出情報(IASR)、感染症発生動向調査事業年報、感染症情報センターホームページなどによって、主に同室の業務として行われている。

#### 第三室（予防接種室：多屋馨子室長）

感染症流行予測調査事業の一環として行われている血清疫学調査の立案と実施、現行予防接種の効果と副反応に関するモニタリング、これらの結果の公表と広く一般への情報提供、予防接種対象疾患の感染症として人に与える影響(disease burden)に関する調査研究、及び今後の我が国における予防接種の有用性に関する総合的研究を行っている。また感染症研究所業務として行われている国内血清銀行の管理運営を行っている。

#### 第四室（病原診断室：稲田俊樹室長）

他の部の所管に属さない病原体に関すると思われる原因不明疾患の微生物学的検査、レファレンス、病原診断のための方法の開発を行っている。全国衛生微生物協議会の病原微生物レファレンスセンターのうち、アデノウイルスレファレンスセンターを担当している。

### 第五室（細菌研修室：伊藤健一郎室長）

細菌性疾患の検査に関する情報の収集・解析、情報提供を行っている。また国内外の関連機関と連携し、公衆衛生における細菌検査の技術向上・標準化等を支援している。公衆衛生に携わる公的機関の職員を対象に細菌検査に関する講習の立案・遂行、新規検査法の研究などを行っている。

### 第六室（ウイルス研修室：西尾 治室長）

ウイルス性疾患の検査に関する情報の収集・解析、情報提供を行っている。また国内外の関連機関と連携し、公衆衛生におけるウイルス検査の技術向上・標準化等を支援している。公衆衛生に携わる公的機関の職員を対象にウイルス検査に関する講習の立案・遂行、新規検査法の研究などを行っている。

各室の業務、研究、作業は、独立した個別のテーマもあるが、その多くは各室のスタッフが、それぞれが重なり合い、協力し合いながらテーマ別に集合して取り組んでいる。国内・国外における感染症対策調査、対策案策定、種々の討議への参加、研修なども同様である。したがってそれぞれの業務研究等について各室別に表すのではなく、その内容ごとに情報センターの1年間の活動内容を記した。詳細については以下それぞれの項目別に記されている。

なお、岡部センター長は以下の委員の委嘱を国より受け、国における感染症対策検討の多くに参画している。その背景には、情報センターにおける業務・研究の結果があり、委員会等においてはこれらの結果に基づいた資料などを、多く提供している。

また同様に WHO の依頼による、専門委員等の委嘱もうけている。

- ・ 厚生省労働省健康危機管理調整会議委員
- ・ 厚生労働省厚生科学審議会臨時委員（感染症分科会員、新型インフルエンザ対策ワーキンググループ委員長）
- ・ 厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員（医療機器・体外診断薬診断部会員）
- ・ 厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員（食中毒部会員）
- ・ 厚生労働省疾病・障害認定審査会臨時委員（感染症・予防接種審査分科会委員長）
- ・ 内閣府食品安全委員会専門委員（肥料・飼料等専門調査会委員・緊急時対応専門調査会専門委員・微生物ウイルス専門委員）

- ・ 農林水産省食料・農業・農村政策審議会臨時委員
- ・ 厚生労働省地域保健対策検討会委員（ワーキンググループ委員長）
- ・ 医薬品医療機器総合機構専門委員

## 業績

### 調査・研究

#### ・ 感染症発生動向調査事業に関する研究

##### 1. サーベイランスシステムの改善に関する研究

厚生省新興再興感染症研究事業として「効果的な感染症発生動向調査のための国及び県の発生動向調査の方法論に関する研究」(主任研究者 谷口清州)を組織し、感染症サーベイランスの在り方について研究を行い、後述のシステムの改善事業に対して技術的支援を行った。

[ 谷口清州、重松美加、安井良則、多田有希、山下和予、中瀬克己(岡山保健所)、岡部信彦 ]

##### 2. 感染症発生動向調査に基づく注意報・警報システムおよび全国罹患数推計に関する研究

全数報告疾患のうち2類、4類および5類の一部について、1999年4月から2004年12月までの報告情報の解析を行い、日本公衆衛生学会、国際旅行医学会などで発表し、情報の還元および今後の改善課題について検討した。定点報告疾患の全国罹患数の推計の求め方についての検討および従来の検討方法の再評価、性感染症における定点設定の妥当性についての検討を行った。

[ 重松美加、谷口清州、橋本修二(藤田保健衛生大学)、村上義孝(国立環境研究所)、永井正規(埼玉医科大学)、多田有希、安井良則 ]

##### 3. 症候群サーベイランスの基礎的研究

症候群サーベイランスの基礎的研究として、一般用医薬品、外来受診時の症状、救急車搬送、救急外来初療時の症状、自衛隊駐屯地等広範な対象でその可能性を検討した。特に外来受診時における症状のサーベイランスでは、地方都市を中心に数力所の医療機関の協力を得て、地域的な感染症流行を探知するシステムを開発した。また、院内感染の早期探知システムとしての症候群サーベイランスの可能性を検討し、その実用化を試みた。得られた成果は国内における症候群サーベイランスへの活用にとまらず、国内外の学会で報告し、東南アジア諸国、あるいは中国へも紹介されている。また、韓国、台湾との技術的な相互交流を行った。

[ 大日康史・菅原民枝・重松美加・谷口清州・岡部信彦 ]

#### 4. アメリカ合衆国の院内感染サーベイランスシステム 事業への参画および研究的解析

昨年度に、財団法人ヒューマンサイエンス振興財団若手研究者育成活用事業による CDC の院内感染対策部門へ派遣を受けたが、本年度も引き続きアメリカ合衆国の院内感染サーベイランスシステムの改訂作業に協力した。また、手術部位感染に関する同システムに集積されたデータを用いて、日米の発生動向の相違や発生のリスク因子に関する検討を行なった。

[ 森兼啓太、Teresa Horan ( CDC )、Mary Andrus ( CDC )、Jonathan Edwards ( CDC )]

#### . パンデミック、バイオテロ、公衆衛生対策に関する研究

##### 1. 新型インフルエンザのパンデミック対策に関する研究

(1) 数理モデルを用いて、新型インフルエンザの被害を予想し、公衆衛生的対応を評価、検討した。個人の日常の移動パターンを組み入れた individual base model を開発し、休校や地域封鎖の影響について評価し、その成果を WHO の会合で報告した。

[ 大日康史、谷口清州 ]

(2) 世界各国の指針、行動マニュアルなどの情報を収集、分析、評価し、国内の実践的パンデミック対策計画を確立する礎とし、厚生労働省の新型インフルエンザ行動計画策定に対して全面的に協力した。

[ 谷口清州、森兼啓太、中島一敏、大日康史、田中政宏、安井良則 ]

##### 2. バイオテロ防止におけるバイオセキュリティ管理、教育、訓練の方法論に関する研究

バイオテロにおいて利用される病原体保有施設に対する意図的破壊工作や盗難に限らず、意図的に病原体が持ち出されることを未然に防ぐバイオセキュリティは新しい領域である。対策の背景には、疾病の原因病原体の科学的なリスク評価、実効法制を含めた周辺環境を考慮した管理手法の導入、リスクコミュニケーションを含めた意識向上活動、研究活動への支障を最小限留める日常的活動の訓練などが必要であり、これらの効果的手法について各国の実態の情報収集と分析、翻訳、解説などによる情報の普及、バイオセキュリティにおける疫学情報の利用方法の提示、施設毎の自己診断ツール草案作成準備などを行った。

[ 重松美加、安藤秀二 ( ウイルス第一部 )、杉山和良 ( バイオセキュリティ管理室 )]

#### 3. バイオテロの数理モデルの開発

数理モデルを多くの感染症、特に新興感染症に関して応用し、そこでの公衆衛生対応について事前的に評価した。天然痘、SARS、狂犬病を対象としている。特に、東京大学生産技術研究所との共同研究を進め、スーパーコンピュータを用いての大規模なシミュレーションを行い、その成果を出しつつある。成果は、新型インフルエンザに関しては G7 や WHO での報告、議論、あるいは数理モデルにおける G7 諸国との国際協調に従事した。また、こうした研究業務を前提として、厚生労働省が進めている新型インフルエンザ行動計画において活用されている。

[ 大日康史・菅原民枝・谷口清州・岡部信彦 ]

#### . 感染症の疫学、統計等に関する研究

##### 1. インフルエンザによる超過死亡の評価

人口動態調査の月別全死因死者数のデータから、インフルエンザ流行の我が国の人口動態に与える影響を、「感染研」モデルを用いてインフルエンザによる超過死亡を推定し検討した。中規模の流行であった 2003/04 シーズンは、推計患者数 923 万人、超過死亡 2,400 人と非常に少なかったのに対し、最近の 11 シーズンで最大の流行を経験した 2004/05 シーズンは患者数約 1,770 万人、インフルエンザ関連死亡迅速把握からのデータによる超過死亡は 2 月から 4 月にかけて見られ、15,100 人と非常に多かった。この結果は、病原微生物情報 vol.26, No.11, pp.293-295, 2005 で情報還元した。2005/06 シーズンは、5 月を越えて患者報告がみられ、夏に超過死亡が見られる可能性がある。

[ 大日康史、重松美加、谷口清州 ]

##### 2. インフルエンザ関連死亡迅速把握に関する研究

15 大都市から提供されるインフルエンザ関連死亡 ( インフルエンザ及び肺炎死亡 ) 数を用い、「感染研」モデルと同種の超過死亡推定モデルを適用し、各都市毎の週単位の超過死亡を推定し、迅速な情報還元を行った。迅速把握においては、約 2 週間の遅れで、2 ヶ月遅れの人口動態から推計した結果とよく関連した情報を提供することができ、インフルエンザにおける超過死亡の早期警戒に有用であると考えられた。昨年度に引き続き、データ入手後 3 日以内のウェブによる還元を実現した。

[ 大日康史、重松美加、谷口清州、松岡静香、NEC、厚生労働省健康局結核感染症課、15 大都市・特別区衛生主幹部局 ]

### 3. インフルエンザによる患者数の迅速把握（毎日患者報告）事業の解析と還元システムの構築

インフルエンザ定点 5,000 の 1 割弱に相当する約 500 の定点医療機関よりインターネットを利用し、インフルエンザ様症状で受診した患者数の報告を、毎日受けるシステムを構築。この情報をリアルタイムで統計学的処理し、推計罹患患者数を推計したものをウェブ上で提供し、効果的な対策に役立つよう、インフルエンザの流行状況を早期に情報提供した。このデータは、休診日やその前後の影響が非常に強く、そうした曜日効果を排除するアルゴリズムに関して検討を加えた。また、有志の医師によって運用されているインフルエンザの毎日患者報告である MLflu の運用に参加し、解析を行った。この成果は、国内外の学会で発表した。

[ 大日康史、重松美加、谷口清州、砂川富正、西藤なるを（西藤こどもクリニック）、数理システム、厚生労働省健康局結核感染症課 ]

### 4. 沖縄県における 2005 年夏期のインフルエンザ流行の疫学的特徴に関する研究

沖縄県では、従来、夏期のインフルエンザ流行はなかったが、2005 年は 3 月に発生のピークを迎えた後一度は収束したが、7 月（28 週）に再び小流行が認められた。今後のインフルエンザ対策の検討に資することを目的として、沖縄県福祉保健部健康増進課伊礼壬紀夫課長（当時）と共同で、沖縄県の夏期におけるインフルエンザ流行の疫学的特徴を分析した。

[ 中島一敏、安井良則 ]

### 5. 高齢者に対するインフルエンザワクチンの接種半年から一年後の効果に関する血清疫学的研究

従来日本のインフルエンザワクチンは冬季の流行対策としてのみ実施されてきた。2005 年の沖縄県における夏期の A 型インフルエンザの流行と近年の夏期にインフルエンザが流行する南半球の国々への渡航者の増加から、接種後半年～一年のワクチン効果の評価が重要と考えられた。そこで 1998 年度から 2003 年度の感染症流行予測調査事業結果を用い、高齢者における A 型インフルエンザに対するワクチン接種の半年から一年後の人口レベルでの効果について、血清疫学的に研究を行った。

[ 中島一敏、多屋馨子、佐藤弘、岡部信彦、感染症流行予測調査事業担当者グループ ]

### 6. 障害児施設内におけるインフルエンザの発生動向の調査研究について

乳幼児の集団生活施設における流行シーズンのインフルエンザ流行状況、インフルエンザ罹患後の経過、インフルエンザワクチンの接種状況等を明らかにすることを目的として、特に障害を合併している児の集団生活施設（第 1M 園：肢体不自由児通園施設、第 2M 園：知的障害児通園施設）に対して、ワクチン接種状況に関する調査を実施し、加えてインフルエンザの罹患・発生状況の調査を行った。インフルエンザ発生の鋭敏な指標として、施設内において発熱者のサーベイランスを行うことは、できる限りインフルエンザの発生を抑制することが望ましい、このような障害児施設内でのインフルエンザの集団発生を防止するためにも有用であると思われる。

[ 安井良則、今村淳子（堺市立北こどもリハビリテーションセンターもず診療所）、岡部信彦、谷口清州 ]

### 7. インフルエンザ脳症の発生報告について

感染症発生動向調査に基づいた 2005/06 シーズンまでの過去 3 シーズンの国内におけるインフルエンザの発生動向とインフルエンザ脳症の発生報告について感染症発生動向調査による全国のインフルエンザ定点医療機関からのインフルエンザ患者発生報告結果と、地方衛生研究所及び検疫所からのインフルエンザウイルス分離報告結果、及び 2004 年 3 月から新たに 5 類全数把握疾患として急性脳炎の中での届出対象疾患となったインフルエンザ脳症の発生報告結果を、2003/04、2004/05、2005/06 の 3 シーズンに渡って集計・解析し、その関連性と現在のインフルエンザ脳症発生例の把握システムに関する課題について考察を行った。

[ 安井良則、多屋馨子、上野久美、岡部信彦、森島恒雄（岡山大学大学院小児医科学） ]

### 8. 沖縄県における日本脳炎ウイルス感染症の強化サーベイランスに関する研究

2005 年度、厚生労働省の勧告により、沖縄県は、日本脳炎ワクチンの積極的な接種を中止した。沖縄県はブタの抗日本脳炎抗体陽性率は例年ほぼ 100%となり日本脳炎ウイルス(JEV)の浸淫地域と考えられており、平成 3 年以降 4 名の症例が確定されている。しかし、いずれも商業衛生検査所の臨床検査では診断されず琉球大学で確定されており確定診断は容易でない。そのため、JEV 感染症の把握を目的とし、沖縄県福祉保健部健康増進課、沖縄県衛生環境研究所、琉球大学医学部病原生物学分野と共同で、沖縄県全県的な急性脳炎及び無菌性髄膜炎の

強化サーベイランスを実施した。

[ 中島一敏、上野久美、佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦 ]

## 9. エンテロウイルス重症感染症の疫学研究

重症エンテロウイルス感染症のリスク評価に関する疫学調査を実施した。重症例を超重症例と一般重症例に分類して検討すると、超重症例に保育園児が多いことが注目された。しかし今回の超重症例の定義に合致した症例のうち、多くの症例は入院期間によって分類されていることを考慮すると、保育園児をもつ家庭背景の影響を受けている可能性も考えられた。重症化に関わる因子としてウイルスの違いが重要であるが、原因ウイルスを確定している例は少なく、積極的なウイルス検査ができるよう体制を整える必要があると考えられた。

[ 鈴木葉子、多屋馨子、中島一敏、大山卓昭、大日康史、岡部信彦 ]

## 10. 性感染症 (STD) 発生動向調査の評価と解析

厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業)「性感染症の効果的な蔓延防止に関する研究班(主任研究者 小野寺昭一)」の分担研究として、現行の STD 発生動向調査に関して、近年のわが国における STD の最近の動向を解析するとともに、定点の妥当性等を含め、その信頼性を調査研究した。

[ 小坂円、岡部信彦、多田有希 ]

## 11. 海外で感染した可能性のある症例報告およびリケッチア感染症報告の検討

発生動向調査の情報の解析をもとに、海外での感染が推定される感染症例の最近の動向、報告における問題点、推定される宿主要因の変化などと、ツツガムシ病および日本紅斑熱について、発生動向調査および研究班によるアンケート調査の情報を解析し、感染に関わる活動、都道府県における季節的傾向の変動などにつき描写疫学的検討を行い、国内外の学会、研究集会において報告した。

[ 重松美加、安藤秀二(ウイルス1部)、岸本寿男(ウイルス1部)、山下和予、岡部信彦 ]

## 12. 風疹と先天性風疹症候群の疫学に関する研究

発生動向調査から風疹と先天性風疹症候群の疫学的関連に関する研究を行った。風疹感受性者の年齢層上昇により、10代から若年成人の風疹発生リスクが増加することで先天性風疹発生の懸念が高まっている事を示し、日本ワクチン学会や日本小児科学会等で発表した。

[ 中島一敏、多田有希、多屋馨子、田中政宏、安井良則、

佐藤弘、上野久美、岡部信彦 ]

## 13. 水痘、ムンプス疫学に関する研究

### (1)重症化例に関する疫学研究

2004年1月～2005年12月の2年間に、国内で水痘、帯状疱疹、ムンプスに関連して入院あるいは死亡、水痘ワクチン、おたふくかぜワクチンに関連して入院あるいは死亡した患者につき全国アンケート調査を実施した。回収率41.0%の中間集計で、2004年は水痘、ムンプスにより計3,290名(水痘関連1,655名、ムンプス関連1,616名、不明19名;うち、水痘関連で7名死亡)の入院患者が報告された。2005年については、回収率31.4%の時点で、水痘関連415名、帯状疱疹関連3,497名(うち4名死亡)、ムンプス関連632名、計4,544名の入院患者が報告された。両疾患の対策には、まずワクチン接種率を上げることによって小児での流行を抑制する必要がある。そのためには、両ワクチンの定期予防接種化が望まれる。帯状疱疹については、水痘、ムンプスをはるかに超える入院数であり高齢化社会に向けて、益々その対策が求められる。

[ 多屋馨子、佐藤弘、上野久美、荒木和子、森兼啓太、吉川哲史(藤田保健衛生大学小児科)、中野貴司(国立病院機構三重病院)、庵原俊昭(国立病院機構三重病院)、堤裕幸(札幌医科大学小児科)、浅野喜造(藤田保健衛生大学小児科)、神谷齊(国立病院機構三重病院)、岡部信彦 ]

### (2)保育園における水痘、ムンプス流行に関する研究

保育園における水痘、ムンプスの発生状況ならびにワクチン接種率を検討し、保育園における両疾患の流行蔓延に関する対策研究を行った。また、水痘・おたふくかぜに対するKAP調査を堺市保健所との共同で実施した。

[ 安井良則、柴田仙子(堺市保健所)、藤井史敏(堺市保健所)、越田理恵(金沢市)、近藤弘一(松山市)、上野久美、佐藤弘、中島一敏、大日康史、多屋馨子、岡部信彦 ]

## 14. 麻疹、風疹感受性人口に関する研究

2004年に0-59歳であった人の麻疹、風疹に対する推計感受性者は麻疹で約250万人、風疹で約1,200万人であった。0-59歳であった人の風疹に対する感受性者は女性約400万人、男性約800万人と男性、特に成人男性に多く、女性のみ定期接種が実施されていた年代の男性はその他の年齢群より感受性者が多かった。麻疹感受性人口は2003年度より減少したが、風疹感受性人口は減少が見られなかった。

[ 多屋馨子、佐藤弘、北本理恵、担当都道府県ならびに都道府県衛生研究所 ]

## 15. わが国における日本脳炎の現状と日本脳炎ワクチンの必要性の評価に関する緊急研究

### (1) 感染症発生動向調査から見た急性脳炎に関する研究

2005年感染症発生動向調査における、急性脳炎と無菌性髄膜炎に関して、特に4月から11月に病原体不明の脳炎、髄膜炎の届出がどのような疫学状況であるかを中心に解析した。全体で約60~70%の病原体不明脳炎が届け出られており、無菌性髄膜炎に関しては夏に小児を中心に病原体不明の報告が増加していた。これらの症例の中に、日本脳炎の症例が紛れ込んでいる可能性は否定できず、公衆衛生上の対策に大きな影響を与える可能性もあり、より積極的な病原体検索とその必要性の更なる啓発、支援が重要であると結論付けられた。

[ 上野久美、多屋馨子、岡部信彦 ]

### (2) ADEM 症例の研究

日本脳炎ワクチン後 ADEM 症例が発症したことから、全国の小児科標榜病院約3,000施設を対象に2003-04年に発生した ADEM とその類縁疾患の疫学調査を行なった。その結果、MSを除く、ADEM とその類縁疾患の発症頻度は15歳以下の人口10万人あたり年間0.32と推計された。発症1か月以内のワクチン接種は、インフルエンザ、日本脳炎、ポリオ、風疹の報告があったが、先行感染を伴うものも多かった。

[ 宮崎千明(福岡市立西部療育センター)、多屋馨子、岡部信彦 ]

## 16. 沖縄県における急性ウイルス性脳炎・無菌性髄膜炎強化サーベイランス

日本脳炎ウイルス感染症の積極的な把握を目的とし、感染症法に基づく国の感染症発生動向調査の強化、と位置づけ、沖縄県全県的な急性脳炎及び無菌性髄膜炎の強化サーベイランスを構築した。本研究で構築されたネットワークは日本脳炎ウイルス感染症の把握に非常に有益であり、さらにそれ以外の感染症に対する危機管理上も有益である。今後も、改善、強化しながら継続する必要があると考えられた。

[ 中島一敏、多屋馨子、佐藤弘、上野久美、伊礼壬紀夫(沖縄県福祉保健部健康増進課)、田盛広三(沖縄県福祉保健部健康増進課)、大野 惇(沖縄県衛生環境研究所微生物室)、只野昌之(琉球大学医学部病原微生物分野)、岡部信彦 ]

## 17. 小児における急性脳炎、脳症の病態、診断、治療に関する研究

2003年11月~2005年10月の急性脳炎全数報告データを時、場所、人の要素に関して分析し、発生動向推移や症例の特徴等を検討した。337例(男性186例、女性151例)の症例が報告されており、16歳未満では、43%が病原体不明、37%がインフルエンザ関連であった。一方、16歳以上では73%が病原体不明という結果であった。1例の報告もない自治体もあり、今後、更なる全数報告の啓発と、積極的な病原体検索の推進・支援が必要と考えられた。

[ 上野久美、多屋馨子、岡部信彦 ]

## 18.2 類感染症の発生状況とリスクファクターに関する研究

国内で発生した2類感染症と推定原因食品の情報を収集し、リスクファクターを解析している。(1)感染症発生動向調査から、2005年度に報告された腸チフス患者は48名(推定国内感染7名)、パラチフス18名(同3名)、コレラ49名(同9名)、赤痢患者528名(同122名)であった。2割近くが国内で感染している。増減はあるが、2001年から同様な傾向である。原因食品はほとんどが不明であった。(2)原因食品情報を各種報告、ホームページ等から収集した。原因食品として生食に供される生鮮食品や加工品が挙げられている。(3)パイロット試験として食材を検査した。主に給食用食材316件の食材を検査した。

[ 伊藤健一郎、飯田真里子、多田有希、山下和予、松野重夫、太田正樹、小林幹子、森山和郎、松崎充宏(日本海事検定協会食中毒チーム)、岡部信彦 ]

## 19. 中小規模施設での院内感染発生時の対応に関する研究

厚生労働科学特別研究事業「院内感染地域支援ネットワーク及び相談体制の改善・普及や、データベースおよびバックアップ体制の構築に関する研究(H16-医療-11)」において、「病院感染および病院内新興感染の制御のためのバックアップ体制に関する研究」分担研究班に参画し、院内感染やそのアウトブレイクの発生に際し支援を行う地域支援ネットワークや大学病院・研究機関・学会などの役割に関する研究を行った。

[ 森兼啓太、大久保恵(東京医療保健大学)、倉辻忠俊(国立国際医療センター) ]

## 20. 手術部位感染の疫学に関する研究

日本環境感染学会の学会事業である JNIS ( Japanese

Nosocomial Infections Surveillance)の一環として、院内感染の中でも発生の影響が特に大きい手術部位感染に関して、医療機関で行われるサーベイランスのデータを集積し集計を行い、各施設へのフィードバックを実施した。さらに、手術部位感染のリスク因子に関する研究的解析を行い、学会報告した。

[ 森兼啓太、日本環境感染学会 JNIS 委員会 ]

## 2.1. 感染症疫学情報の解析・評価に関する研究

特定の感染症を患者発生情報と病原体情報の両面から総合的解析を行った。本年度中に「病原微生物検出情報」特集記事として掲載されたテーマは、2005年4月号：腸チフス・パラチフス、5月号：HIV/AIDS、6月号：腸管出血性大腸菌感染症、7月号：クリプトスポリジウム症、8月号：動物由来感染症、9月号：ヘルパンギーナ、10月号：E型肝炎、11月号：インフルエンザ、12月号：ノロウイルス、2004年1月号：コレラ、2月号：つつが虫病/日本紅斑熱、3月号：細菌性赤痢である。

[ 山下和予、赤塚昌江、加藤信子、徳永真里子、野地元子、木村幹男、多田有希、安井良則、岡部信彦、谷口清州、重松美加、多屋馨子、佐藤弘、伊藤健一郎、西尾治、井上栄(感染症情報センター)、渡邊治雄(副所長、細菌第一部)、廣瀬健二(細菌第一部)、寺嶋淳(細菌第一部)、荒川英二(細菌第一部)、三戸部治郎(細菌第一部)、倉根一郎(ウイルス第一部)、岸本寿男(ウイルス第一部)、安藤秀二(ウイルス第一部)、宮村達男(ウイルス第二部)、武田直和(ウイルス第二部)、清水博之(ウイルス第二部)、吉田弘(ウイルス第二部)、田代真人(ウイルス第三部)、小田切孝人(ウイルス第三部)、荒川宜親(細菌第二部)、新谷三春(細菌第二部)、遠藤卓郎(寄生動物部)、八木田健司(寄生動物部)、小林睦生(昆虫医科学部)、山田章雄(獣医科学部)、神山恒夫(獣医科学部)、今岡浩一(獣医科学部)、佐多徹太郎(感染病理部)、石井則久(ハンセン病研究センター)、山本直樹(エイズ研究センター)、中嶋建介(国際協力室)、山本茂貴(国立衛研)、三宅智(企画調整主幹)、倉田毅(所長)、吉倉廣(前所長)、金成由美子(厚生労働省)、滝本浩司(厚生労働省)、井上隆弘(厚生労働省)、河村成彦(厚生労働省)、仲庭裕司(厚生労働省) ]

## 2. 予防接種、薬剤等に関する研究

### 1. 水痘、流行性耳下腺炎、肺炎球菌の研究

#### (1)水痘ワクチン導入に伴う水痘 帯状疱疹ウイルスに対する血清抗体陽性率の推移に関する研究

水痘ワクチンの導入に関する日本国民の水痘 帯状疱疹ウイルスに対する年齢群別血清抗体保有状況の推移を把握するとともに、感受性者の蓄積状況に関して考察し、今後の水痘流行阻止に有効な対策を提言することを目的に水痘の血清疫学調査を実施した。National Serum Reference Bank / Tokyo, National Institute of Infectious Diseases, Japan から分与を受けた972検体を用いた。ワクチン導入前と比較すると、ワクチン導入後は1歳児における抗体陽性率が20~30%上昇していたが、1歳児で約79万人、20-29歳群で約158万人の感受性者が存在すると推計された。

[ 上野久美、佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦 ]

#### (2)水痘および流行性耳下腺炎の定期接種化の費用対効果分析

水痘および流行性耳下腺炎の疾病負担の推定に基づいて、定期接種化のための費用対効果分析を行った。成果は、国内学会等で報告した。

[ 大日康史、菅原民枝(筑波大学)、多屋馨子、岡部信彦 ]

## 2. 予防接種制度の改定に関する検討

平成17年度に行われた予防接種法に関連する政省令改正に関連し、その後の自治体の予防接種事業の現状についての調査をおこなった。これまでの結果は、厚生労働科学研究(H17-特別-058)「麻疹・風疹の予防接種率とワクチンの需要に関する調査研究」総括・分担研究報告書(平成18年3月)で報告した(「麻疹・風疹の定期予防接種制度改正に伴う定期接種の実施に関する全国市町村および特別区への実態調査」、「日本脳炎ワクチン、水痘ワクチン、ムンプスワクチン、インフルエンザワクチンの接種事業に関する調査」)[ 田中政宏、大日康史、菅原民枝 ]

## 3. 米国 ACIP 会議参加と日本の予防接種戦略に関する検討

わが国の感染症対策の一環として、米国 ACIP(予防接種の実施に関する諮問委員会)に参加し、日本版 ACIP 作成に向けた検討を行った。

[ 横田俊平(横浜市立大学小児科)、多屋馨子、岡部信彦 ]

#### 4. 麻疹、風疹ワクチンに関する研究

1歳児麻疹ワクチン接種率は、2001年52%、2003年63.4%。2004年76.1%と上昇を認めた。2-3歳児の接種率も92.9%に上昇した。1歳児風疹ワクチン接種率は、2001年度35%、2003年35%、2004年40.9%と麻疹並みの増加はなく低値であった。MMRワクチンについては、接種世代のピークが2004年度15-16歳であり、接種率は約40%であった。

[多屋馨子、佐藤弘、上野久美、荒木和子、岡部信彦、担当都道府県ならびに都道府県衛生研究所]

#### 5. 混合ワクチンの品質確保に関する研究

厚生科学研究医薬安全総合研究事業（宮村班）の分担研究3年目として研究を行った。現行の生ポリオワクチンの接種率は良好であり、3型以外においては、抗体陽性率は高く維持されていた。一方、昭和50-52年生まれの世代の1型ポリオウイルス抗体陽性率は、前後の年齢群より低い傾向は変化がなかった。

[多屋馨子、佐藤弘、上野久美、荒木和子、丹生隆、北本理恵、岡部信彦、流行予測調査事業グループ（厚生労働省、北海道、宮城県、山形県、富山県、愛知県、山口県、愛媛県の各道県及びその衛生研究所）、武田直和（ウイルス第二部）、宮村達男（ウイルス第二部）]

#### 6. ワクチンの製造株の品質管理に関する研究

医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業（加藤班）の分担研究2年目として実施した。シードロットシステム導入後の品質管理に関する臨床・疫学的検討方法として、今年度は、血清疫学調査を用いて検討した。シードロットシステム導入後の臨床・疫学的調査として、本方法を用いることにより、免疫獲得状況を把握し、ワクチンの品質管理に用いることが可能と考えられた。

[上野久美、多屋馨子、佐藤弘、岡部信彦]

#### 7. ワクチンの需要予測

ワクチンの安定供給を目的として、毎年インフルエンザワクチンの需要予測を行っているが、本年度はそれに加えて、日本脳炎ワクチンの積極的勧奨の中止、MR2回接種制度移行に伴い麻疹あるいは風疹の単味ワクチンの定期接種の中止に伴う、日本脳炎ワクチン、麻疹あるいは風疹の単味ワクチンの需要予測を行い、予防接種行政に貢献した。

[大日康史、菅原民枝、岡部信彦]

#### 8. インフルエンザ予防接種の政策評価

厚生科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）「インフルエンザをはじめとした、各種の予防接種の政策評価に関する分析疫学研究」研究班（主任研究者：廣田良夫）の中島一敏分担研究班の研究の一環として、以下の調査・研究を実施した。

全国約4700箇所のインフルエンザ定点医療機関より都道府県、政令市を通じて報告されるインフルエンザの発生状況並びに全国の地方衛生研究所から送られてくる病原体検出結果に基づいて2004/2005年シーズン、2005/2006年シーズンの2シーズンのインフルエンザの流行状況の解析を行った。2004/2005年シーズンの流行開始は2005年第3週と遅く、そのピークも第9週と例年よりも遅れたが、その流行規模は非常に大きく、推定患者発生数は1770万人であった。ウイルス分離ではB型インフルエンザウイルスが55.3%を占めており、B型が流行の中心であった。流行間期である2005年夏期に、沖縄県において本島を中心にインフルエンザの流行がみられた。分離されたウイルスは全てAH3型であった。2005/2006年シーズン（2006年第6週まで）は第50週と比較的早くにインフルエンザの流行が始まり、そのピークは例年と同様第4週になると推定される。これまでのところ流行の主流はAH3型であり、中部地域から西日本地域からの患者報告数が多い。今後とも流行間期も含めたインフルエンザの地域的な流行発生に注意していくべきであると思われる。

[安井良則、中島一敏、廣田良夫（大阪市立大学大学院公衆衛生学）]

#### 9. 熱帯病・寄生虫症治療のための国内未承認薬の確保・供給

平成16年度から開始された創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業「熱帯病・寄生虫症に対する稀少疾病治療薬の輸入・保管・治療体制の開発研究」班（主任研究者：名和行文）の主要な活動として、熱帯病や寄生虫症に対する治療薬剤で、国内で認可されていないが必要なものを許可を得て輸入し、全国21ヶ所の保管機関に配付し、それらの機関を通じて薬剤入手を可能にする体制を構築し、運営してきた。そして、これらの国内未承認薬へのアクセスを容易にすることを目的に、研究班のホームページを充実させた。また、平成17年度には医療従事者を対象とした研修会「医療従事者に必要な寄生虫症・輸入感染症の知識」を開催した。

平成14年度に発行した「寄生虫症薬物治療の手引き2003年改訂第5版」については、その後数回にわたり小

規模な改訂を行い、研究班のホームページから PDF 版でダウンロードできるようにしたが、現在「改訂第 5.5 版」に更新されている。

[ 木村幹男、日谷明裕、宮村和夫 ]

## 10. トラベルワクチンの適切な接種方法に関する研究

平成 17 年度より開始された厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業「海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究」の分担研究「トラベルワクチンで予防できる疾患の国内発生状況」( 分担研究者：岡部信彦 ) に参加した。1999 年 4 月～2005 年における感染症発生動向調査から、ワクチン予防可能疾患での国外感染例をまとめたが、それぞれの疾患で年毎の変動がみられた。推定感染国としてはコレラではフィリピン、インド、腸チフスではインド、バングラデシュ、ネパール、A 型肝炎ではフィリピンが多く、B 型肝炎ではタイ、中国などに多い傾向がみられた。さらに、国際観光振興機構が発表している国別日本人渡航者数を分母として、2004 年における疾患別・国別罹患率の算定を試みた。その結果、コレラではインド、腸チフスおよび A 型肝炎ではインドとネパールでの罹患率が高かった。B 型肝炎については特別な傾向はみられなかった。平成 18 年度には、ワクチン予防可能疾患の中で厳密に日本人渡航者に限った解析を行い、年度毎での変化も明らかにし、日本人海外渡航者におけるワクチン予防可能疾患の罹患についての全体像をまとめる。そして、最終的にワクチン接種の優先順位に関する指針を示す。

[ 岡部信彦、多田有希、木村幹男 ]

### ・病原体等の研究

#### 1. 風疹ウイルスの体外診断薬に関する標準品に関する研究

厚生労働科学研究費補助金医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業( 竹森班 ) の研究協力として、麻疹抗体検出キットの品質管理に関する研究を行った。麻疹抗体測定において迅速で簡便なゼラチン粒子凝集反応( PA 法 ) 及び酵素免疫法( EIA 法 ) による成績を比較した。その結果、両方法にほとんど差はみられず、また中和抗体との相関性が認められている PA 抗体価を基準とした場合の EIA 法における測定値の評価の目安を陽性的中率から算出した。

[ 佐藤弘、多屋馨子、竹森利忠 ( 免疫部 ) ]

#### 2. エンテロウイルスの同定法の検討

エンテロウイルスの同定法の検討：エコー16 標準株お

よび分離株を用いて、エンテロウイルスの検出同定法の検討を行った。また、最近の流行株と標準株との性状、遺伝子配列の違いを明らかにした。

[ 荒木和子、多屋馨子、元明秀成 ( 宮崎県衛生環境研究所 )、岡部信彦 ]

#### 3. ポリオワクチン接種後のウイルスの排出

初回 OPV 投与を受けた 1 児 ( 1 歳 6 ヶ月 ) の糞便中へのウイルス量を調べた。投与後 35 日間のウイルス量をブラック法により測定した結果、投与 2 日後から血清型 2 を主とするウイルスの排出が始まり 9、10 日をピークとし、13 日までみられた。また、観察期間中に発熱、嘔吐等の臨床症状が見られた。培養細胞を用いたウイルス分離同定およびゲノム検索を行った結果、アデノウイルス 2 型およびノロウイルスが検出された。

[ 荒木和子、多屋馨子、松野重夫、岡部信彦 ]

#### 4. 急性脳炎関連ウイルス

##### (1) 急性脳炎患者における原因ウイルスの検索

原因不明の急性脳炎患者の髄液、血清、便等から PCR 法 (あるいは RT-PCR 法) によりウイルスゲノムの検出を行った。当室において、ヘルペスウイルス ( HSV-1、HSV-2、HHV-6 )、エンテロウイルスについて検討した。また、ウイルス第一部において、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルスについて検討した。PCR の結果、3 例からエンテロウイルスゲノムが検出されたが、血清型の同定は不能であった。他の検体からは検索したウイルスは検出されなかった。

[ 佐藤弘、荒木和子、上野久美、多屋馨子、岡部信彦 ]

#### 5. 腸管病原性大腸菌 ( EPEC ) の研究

##### (1) EPEC に特徴的なマイクロコロニー形成に関与する *bfpA* 遺伝子の分布と遺伝子型

わが国とタイ国で分離された局在性付着大腸菌 ( *eae* 遺伝子陽性 ) のマイクロコロニー形成に関連する *bfpA* 遺伝子の分布と遺伝子型を調べた。*bfpA* の遺伝子型別は Heteroduplex Mobility Assay ( HMA ) 法で行った。

調べた 204 株のうち *bfpA* 遺伝子陽性は 34 株で、その *eae* 遺伝子型はほとんどが a1 であった ( 29 株 )。 *bfpA* の遺伝子型は 5 種類 ( 7 亜種 ) の型に分類できた。*eae* と異なり、 *bfpA* は同血清型でも異なる遺伝子型に分布する菌株が存在した。

[ 飯田真里子、山崎貢 ( 愛知県衛生研究所 )、八柳潤 ( 秋田県健康環境センター )、Orn-Anong-Ratchtrachenchai,

Sarayoot Subpasu (タイ国保健衛生研究所) 岡村登(東京医科歯科大学) 伊藤健一郎]

## (2) EPEC 血清型 O157:H45 における付着関連遺伝子の分布

典型的な EPEC は LEE 遺伝子座 (*eae* を含む) と EAF プラスミド (*bfpA* を含む) を有する。本邦では O157:H45 が最も多い。O157:H45 は集団下痢症患者からも分離され、広く分布していると考えられるが、その特徴は明らかではない。本血清型における病原因子保有状況と自己凝集性を調べた。

調べた 19 株全てが *eae* を有し、HMA 型は a1 であった。集団事例株は *bfpA*-1 型で EAF を保有し強い凝集を示したが、散発事例株は *bfpA* 型、EAF の保有、及び凝集性において多様性を示した。本血清型は株間で病原性の強さが異なっている可能性があり、より詳細に検討する必要がある。

[飯田真里子、岡村登(東京医科歯科大学) 山崎貢(愛知県衛生研究所) 成松浩志(大分県日田玖珠県民保健福祉センター)、鈴木理恵子(神奈川県衛生研究所)、倉園貴至(埼玉県衛生研究所)、蛭田徳昭(横須賀市健康安全科学センター)、磯部順子(富山県衛生研究所)、勢戸和子(大阪府立公衆衛生研究所)、金子通治(山梨県衛生公害研究所)、河野喜美子(宮崎県衛生環境研究所)、八柳潤(秋田県健康環境センター) 伊藤健一郎]

## 6. リアルタイム PCR (SmartCycler) による迅速診断法の開発

サイクリングプローブ法を用いて、H 抗原 (*fljC*) 及び O 抗原の成分である tyvelose の変異部分にプライマーを設計し、チフス菌とパラチフス菌を明確に区別できる方法を確立した。最近分離され細菌第一部に送付されたチフス菌・パラチフス菌を試したところ、同定結果と完全に一致した。

[伊藤健一郎・広瀬健二(細菌第一部)]

## 7. 動物実験モデルによるムンプスウイルスの神経病原性に関する研究

ムンプスウイルス株の神経病原性をラット及びマウスを用いて検討した。また、ラット脳内のウイルスの増殖経過及びサイトカインの発現経過について検討した。

[斉加志津子(千葉県衛生研究所)、一戸貞人(千葉県衛生研究所)、木所稔(ウイルス第三部)、永田典代(感染病理部)、岡部信彦]

## サーベイランス業務

### ・感染症発生動向調査事業の実施および情報の還元

#### 1. 病原体情報の収集と月報・年報の作成

病原微生物検出情報事務局において、病原体情報センター業務として、オンラインによる報告票の収集、電算機処理、情報ファイル作成、作表、月報および年報の作成、配布に関する一連の作業が継続的に実施された。

(1) 情報処理: 2005 年 1 月-2005 年 12 月の検出病原体報告数は、病原菌については、地研・保健所 7,708、検疫所 2,825、都市立感染症指定医療機関 534 であった。ウイルス(リケッチア、クラミジアを含む)に関しては 16,363 件の検出報告をうけた。

(2) 月報の編集: 本年度中に病原微生物検出情報月報が 12 号(第 26 巻)および第 26 巻索引が編集・発行された。また、インターネットを介して毎月、病原微生物検出情報が国内外に提供された。

(3) 年報の編集: 病原体情報に関する年報は、欧文による 2001 年年報が、Japan J. Infect. Dis., 2002 Vol.55 Supplement として編集・発行された。

[山下和予、赤塚昌江、加藤信子、野地元子、徳永真里子、砂川明英、木村幹男、岡部信彦]

#### 2. 感染症週報の発行

平成 11 年 4 月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」、および平成 15 年 11 月施行の一部改正の主旨のもとに、感染症週報の発行を継続しており、当感染症情報センターのホームページ上に PDF 版と HTML 版とで掲載している。

感染症週報には「発生動向総覧」以外に、「注目すべき感染症」としてその時々で問題となる感染症を 1~2 件取り上げ、詳細な解説を行い、「病原体情報」として、その時々で問題となる感染症の患者からの病原微生物検出状況を掲載している。

また、「速報」においては、主に地方衛生研究所から投稿される、国内で問題となったアウトブレイクに関する最新の記事などを掲載し、成田空港検疫所の協力で「海外感染症情報」のコーナーを設けて、最新の海外感染症に関する記事を紹介し、「感染症の話」においては所内外の協力を得て、感染症法に規定された疾患、あるいはそれ以外の疾患も取り上げて解説を行い、「読者のコーナー」においては、外部からの問い合わせのあった質問につき、掲載する価値があると判断されたものを多くの読者にも公開している。

[岡部信彦、木村幹男、多田有希、安井良則、谷口清州、多屋馨子、小坂円、山下和予、赤塚昌江、徳永真里子、

菊池仁(成田空港検疫所)、石井俊也(成田空港検疫所)  
大竹由里子、松岡静香、加藤信子、中里篤、FETP 研修  
生 6 期&7 期、中島一敏、大山卓昭]

### 3. インターネット等による病原体情報の提供

(1)病原体情報報告機関に対して、速報を還元するために WWW-WISH の個別情報システムの還元情報速報閲覧のページに新しいデータのアップロードを毎日行った。

(2)IDSC ホームページの「病原微生物検出情報」のページに、オンラインで随時報告されるデータの追加・変更を反映させた速報グラフを更新・掲載した。地方衛生研究所などからの速報記事を随時掲載した。また、累積データに基づく統計表とグラフおよび病原体名、疾病名から検索できる月報特集記事索引を毎月作成し更新・掲載した。

(3)インフルエンザシーズン中、ウイルス第三部へのインフルエンザウイルス情報の転送と、WHO の FluNet への日本の週別型別分離数データのアップロードを毎週行った。また、ウイルス第三部から地研への 2005/06 シーズン HI 試験成績還元データを WWW-WISH の電子会議室の病原体情報フォーラムにアップロードした。

(4)地方衛生研究所と検疫所の検査情報担当者メーリングリストを更新し、毎月の予定についての連絡、システムバージョンアップ等の連絡、ウイルス担当者や細菌検査担当者への臨時情報の提供を行った。

[ 山下和予、赤塚昌江、徳永真理子、野地元子、加藤信子、砂川明英 ]

### 4. インフルエンザ流行レベルマップの作成

感染症発生動向調査により得られた全国のインフルエンザ患者発生動向を、過去の患者発生状況をもとに設けられた基準値に基づいて解析し、保健所ごとに警報レベル、注意報レベルを超えたことを情報還元するための「インフルエンザ流行レベルマップ」を作成し、毎週火曜日に感染症情報センターのホームページ上にアップデートした。コメント欄には、最新の患者発生状況と病原体情報から得られたインフルエンザウイルス分離結果を合わせて掲載している。2005 年度は 2004/2005 年シーズンに含まれる 2005 年第 14 週～第 26 週、2005/2006 年シーズン中の 2005 年第 43 週～2006 年第 13 週までのインフルエンザ流行レベルマップ作成を行った。

[ 安井良則、柴田博子、木村幹男、谷口清州 ]

### 5. 感染症発生動向調査、各種疾患別情報および新着情報などのインターネットホームページへの掲載、更新、維持

感染症発生動向調査の各種集計および解析結果、時系列グラフ、地図グラフをホームページ上に掲載し、定期的に更新、維持管理を行った。各種疾患別情報および新着情報、およびインフルエンザ様疾患発生報告のページについても内容を検討し、HTML ファイル等の作成、維持管理を行った。

[ 大竹由里子、松岡静香、安井良則、重松美加、森兼啓太、田中政宏、多田有希、木村幹男、加藤信子 ]

#### ・感染症発生動向調査のシステムの改善

##### 1. 感染症検査情報オンラインシステムの改良

平成 12 年 1 月より運用を開始した感染研 - 地研・検疫所間の感染症検査情報(病原体情報)コンピュータオンラインシステム Version4 について、機能追加のためプログラムの改善を行った。2004/05 インフルエンザシーズン用抗血清コードを追加した Version4.80 を平成 17 年 10 月に、さらに市区町村コード・保健所コードなどを追加修正した Version4.81 を平成 17 年 1 月より運用開始した。

[ 山下和予、赤塚昌江、徳永真理子、野地元子 ]

##### 2. 感染症発生動向調査新システムの開発支援

###### (1)感染症発生動向調査システム

「感染症の患者の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく、感染症発生動向調査は、感染症の発生情報を迅速に把握し的確に対応することにより、感染症の蔓延を防止する目的で、1999 年 4 月の法制定以降、厚生労働行政総合情報システム(WISH)上に構築され運用されている。しかし、システム稼働後の法改正に未対応の部分がある等の課題があったことから、再構築することとされた。新システムの方向性、概要については発生動向調査システム開発事業評価委員会(委員長:谷口清州)により示された。この新システムの開発に当たり、具体的な技術的支援を行った。特に迅速な報告を要する事項に対する判断・早期対応を可能とするため、集計途中での状況把握が可能な仕組みとし、セントラルデータベースでのデータ一元管理により、保健所、地方感染症情報センター、中央感染症情報センター等の関係機関の間で情報共有が可能とされた。新システムは 2006 年 4 月 3 日に稼働開始された。

[ 多田有希、加藤信子、安井良則、木村幹男、松岡静香、中里篤、大竹由里子、谷口清州、神谷信行(東京都健康

安全センター)、池田一夫(東京都健康安全センター)、  
灘岡陽子(東京都健康安全センター)、中村廣志(神奈川県  
衛生研究所)、橋本修二(藤田保健衛生大学)]

## (2) 病原体検出情報システム

平成 18 年度に感染症発生動向調査等システムの全体  
が全面的に更新されるため、病原体検出情報サブシステ  
ムについて現行システム評価のための資料提供、調達仕  
様書への要求資料作成、地方衛生研究所に対するアンケ  
ート調査、基本設計～詳細設計の仕様確認およびユーザ  
ー試験を行った。併せて 1980 年から蓄積されている過去  
データを新システムのセントラルデータベースに移行す  
るため、データのマッピング・再確認等を行った。

[山下和予、赤塚昌江、徳永真里子、野地元子、加藤信  
子]

## (3) 疑い症例調査支援システム

SARS、新型インフルエンザ、バイオテロといった重大  
な感染症の策のための情報共有システムとしてを構築し  
た。また、その概要説明等、都道府県に対する説明を行  
った。

[大日康史、重松美加、谷口清州]

## (4) 症候群サーベイランス

バイオテロあるいは新型インフルエンザ対策に利用で  
きる症候群サーベイランスのシステムとして、医療機関  
から Web を通じて直接に患者の情報あるいは患者数の  
情報を登録、閲覧できるシステムを開発した。その機能  
として自動的に流行を感知するシステムを開発し、実装  
した。また、その概要説明等、都道府県に対する説明を  
行った。

[大日康史、重松美加、谷口清州]

## (5) 感染症流行予測調査システム

感染症流行予測調査システムの設計・開発・検証を平  
成 18 年 4 月稼働開始に向け行った。データはセントラル  
データベースで一元管理することとし、データ登録、集  
計が迅速で多様な還元を可能とした。

[佐藤弘、北本理恵、多屋馨子]

## (6) インフルエンザ関連死亡

東京都特別区および政令指定都市の協力の下に厚生労  
働省健康局結核感染症課が行っている「インフルエンザ  
関連死亡者迅速把握」事業のための入力画面を作成し、  
感染症発生動向調査新システムの一部として稼働させた。  
また、その概要説明等、都道府県に対する説明を行った。

[大日康史、重松美加、谷口清州]

## ・海外感染症情報の収集と評価

WER (WHO)、MMWR (米国 CDC)、Eurosurveillance  
Weekly (EU)、CDR Weekly (英国)、SCIEH Weekly Report  
(スコットランド)、CDI(豪州)、Lancet、N. Engl. J. Med.、  
J. Infect. Dis.、Clin. Infect. Dis.、J. Travel Med.などや、電  
子メールでの ProMED、Outbreak Verification List (WHO、  
参加機関のみ) や TravelMed (国際旅行医学会、会員のみ)、  
あるいは、その他種々のウェブページ上での感染症情報  
を収集・評価し、必要な情報を関係機関に提供した。

[岡部信彦、木村幹男、谷口清州、多屋馨子、多田有希、  
安井良則、重松美加、森兼啓太、大日康史、田中政宏、  
大山卓昭、中島一敏、ポール・キツタニ、FETP 研修生 6  
期&7 期]

## ・感染症流行予測調査事業に関する業務

### 1. 感染症流行予測調査報告書の作成

厚生労働省健康局結核感染症課及び感染研関係各部と  
共同で、平成 16 年度(2004 年度)報告書を作成した。

[多屋馨子、佐藤弘、上野久美、北本理恵、丹生隆、荒  
木和子、田中幸江、岡部信彦]

### 2. 感染症流行予測調査結果速報の発信

平成 17 年度感染症流行予測調査のうち、A)インフル  
エンザ HI 抗体保有状況を 11 月 29 日から 12 月 26 日ま  
で計 2 回、B)全国日本脳炎ブタ情報(HI 抗体保有状況)  
を 7 月 4 日～12 月 28 日まで計 17 回速報としてホームペ  
ージ上に公開した。C)麻疹、風疹、MMR ワクチンの年  
齢別接種率をホームページ上に公開した。

[佐藤弘、多屋馨子、上野久美、北本理恵、丹生隆、荒  
木和子、岡部信彦]

### 3. 感染症流行予測調査実施要領の作成

厚生労働省健康局結核感染症課と共同で、平成 17 年度  
版を作成した。

[多屋馨子、佐藤弘、丹生隆、上野久美、北本理恵、荒  
木和子、岡部信彦]

### 4. データバンク保存

[佐藤弘、上野久美、北本理恵、丹生隆、荒木和子、多  
屋馨子、岡部信彦]

### 5. オンライン入力システムの改訂、検証

都道府県からの結果送付用のシステムおよび集計シス  
テムを平成 17 年度版に改訂、検証した。

[北本理恵、佐藤弘、多屋馨子、上野久美、丹生隆、荒

木和子、岡部信彦]

## 6. 事務局業務

厚生労働省健康局結核感染症課、都道府県、都道府県衛生研究所、感染研関係各部との密接かつ円滑な連携を保つための業務を行った。

[ 多屋馨子、佐藤弘、上野久美、北本理恵、丹生隆、荒木和子、田中幸江、岡部信彦 ]

### ・サーベイランス事業の支援

#### 1. 院内感染対策サーベイランス事業の支援

厚生労働省事業として行われている「院内感染対策サーベイランス」を支援する、厚生労働科学研究費補助金「薬剤耐性菌の発生動向のネットワークに関する研究」の分担研究班:「院内感染サーベイランスにおける解析結果の還元・提供に関する研究」および「手術部位感染症における効果的な感染症発生動向の把握と感染症リスク因子解析に関する研究」に対して横断的に担当し、解析結果のフィードバックに関するアンケート調査や、入力支援・データ提出・解析・フィードバックの流れを一元的に管理できるソフトウェアの開発に参画した。

[ 森兼啓太、谷口清州、岡部信彦、荒川宜親(細菌第2部)、小西敏郎(NTT 東日本関東病院)、針原康(同)、フィンガルリンク株式会社、片岡穰(厚生労働省医政局指導課)、溝口達也(同)]

#### 2. 国内院内感染症集団発生事例に対する調査支援

急性C型肝炎集団発生事例(北海道札幌市)

[ 森兼啓太、安井良則、(FETP)、谷口清州、岡部信彦 ]

#### 3. 国際的な感染症対策の枠組みに係わる技術支援

世界保健機関により行われている国際保健規則(IHR)の改正に関連して、その条文を技術的に検討し、作業部会にての議論を行った。第58会世界保健総会(ジュネーブ)および第57会WHO西太平洋地域委員会(ヌーメア)に出席し、感染症関連議題(新型インフルエンザによる世界流行対策、マラリア対策、世界予防接種戦略、薬剤耐性菌対策、新興感染症対策戦略、ポリオ根絶・麻疹排除・B型肝炎コントロール等)の情報提供、議論、決議草案作成に参加した。またバイオテロ対策やパンデミック対策において、G7+メキシコのGHSAGの会議に参加し、技術的な支援を行った。また政府間調整会議で議論を行った。

[ 中島一敏、大日康史、田中政宏、谷口清州 ]

### ・感染症情報の収集、評価及び予防対策の策定

#### 1. 生物学的製剤に起因する感染症に関する安全性関連情報収集業務

移植片、輸血、タンパク製剤など生物由来の医療関連材料によると考えられる感染症を、早期に把握し、情報提供することにより、健康被害の拡大を防ぐことを目的とした情報収集と、そのためのシステム構築し、実施に向けた最終調整を行った。昨年度に引き続き、2000年以降の海外の文献情報を遡り検索し、関連情報をデータベース化した。2005年9月以降は、報道機関ニュースと、各国および国際的機関の公式情報を毎日、国内外の文献情報を定期的に収集し、生物学的製剤に関連を検討評価し、データベースに蓄積した上で、事務局として、生物学的製剤由来感染症評価検討委員会へ提出し、その調査、対応の緊急性を評価し、感染症研究所として科学的見知からコメントし、関係諸機関へ報告した。また、情報検索および蓄積・検索データベースのシステム開発に関与し、試験稼働を開始するとともに、よりよい検出アルゴリズム開発のための検討を行った。

[ 重松美加、谷口清州、多屋馨子、柴田博子、岡部信彦 ]

#### 2. トリインフルエンザの汎アジア的発生に対する情報収集とヒト流行への予防的対策

2003年末からアジアで発生している鳥インフルエンザ(H5N1)の、ヒト感染が確認されたベトナムにおける疫学情報や実験室診断に関する情報収集を行い、現地担当者と情報交換を実施し、感染拡大防止の対策などの情報提供、技術支援を行った。WHO、OIE(国際獣疫事務局)や各国衛生主管部局より発信された情報を整理し、随時日本語に翻訳(約150文書)して情報センターのホームページに迅速に掲出し、国民の情報ニーズに対応するとともに、定期的なメディア・ブリーフィングの実施など、リスクコミュニケーションの向上を図った。並行して、日本で鳥インフルエンザからのヒトでのパンデミック発生に備えた対応計画の策定のための情報収集と、既存の各国の計画の評価を行った。

[ 森兼啓太、田中政宏、大日康史、重松美加、砂川富正、中島一敏、ポール・キツタニ、大山卓昭、FETP6期&7期、谷口清州、岡部信彦 ]

#### 3. インフルエンザ流行期におけるインフルエンザ総合対策(強化サーベイランス、電話、メール問い合わせおよびウェブ情報の提供)

インフルエンザのQ&Aを更新し、医療従事者以外の要望の強い情報も提供した。インフルエンザホットライ

ン業務を12月から3月までの平日日中時間帯に実施した。

[岡部信彦、谷口清州、多屋馨子、重松美加、森兼啓太、田中政宏、大日康史、松岡静香、木村幹男、多田有希、安井良則、大山卓昭、砂川富正、中島一敏、柴田博子、FETP 研修生6期&7期]

## 国際協力関係業務

### ・国際的調査協力及び支援

#### 1. インドネシアにおける鳥インフルエンザ発生に伴う緊急支援

インドネシアにおける鳥インフルエンザの発生とヒトへの感染をうけて、日本政府としての緊急援助隊派遣に伴い、その事前調査と実際の臨床、疫学、ラボの三つの立場から技術的支援を行った。

[中島一敏、谷口清州、他免疫部、ウイルス第三部]

#### 2. インドシナ諸国における鳥インフルエンザ対策の現状評価と感染研の協力の可能性に関する調査

2004年から、インドシナ諸国で鳥インフルエンザの流行とヒト症例の報告が続いていることへの対応策として、2006年3月から4月にかけて、厚生労働省国際協力室長、感染研国際協力室長、感染研ウイルス3部インフルエンザ室長らとともに、ベトナム南部、ラオス、カンボジア、ミャンマーの保健省のレファレンスラボおよび担当部局を訪問し聞き取り調査を行い、今後の感染研との協力についての可能性につき協議した。その結果は、国際協力室による感染研報告会および厚生労働科学研究特別研究事業報告書(2005年3月)において報告した。

[田中政宏]

#### 3. カンボジアにおけるワクチン由来ポリオ症例発生に対する現地担当者との情報交換 2006.3.7.-15.

[上野久美]

#### 4. Botulism antitoxin supply to Thailand from Japan 2006.3.22.-26.

[上野久美]

### ・国際研修

#### 1. 海外からの来所者への感染症情報センターの活動および感染症対策に関する情報提供と広報

国立国際医療センター海外研修生、JICA 留学生、各国保健医療および政府関係者などの来所時に、感染症情報センターの活動、国内感染症の発生動向、国内および国際連携による感染症対策の現状、予防接種、SARS を含

む国際感染症対策、パンデミック対策などについての研修、情報提供、広報業務をおこなった。

[岡部信彦、谷口清州、大日康史、重松美加、森兼啓太、田中政宏、大山卓昭、中島一敏、木村幹男、山下和予、多田有希、多屋馨子]

## 研修業務

### ・感染症危機管理およびそれに関わる人材養成(実地疫学専門家養成プログラム)に関する業務

#### 1. 全般実施状況

FETP の実施は7年目となり、平成17年4月、7期生3名(阿保満、鈴木智之、鷲見宏)を迎えた。平成18年3月には6期生9名(山口亮、三村敬司、松館宏樹、森山和郎、神垣太郎、登坂直規、小林幹子、鈴木葉子、太田正樹)が研修終了した。また平成13年度から Dr. John Kobayashi (Washington University, 米国) に長期コンサルタントを継続依頼し、感染症疫学研究、地方自治体との積極的疫学調査などが充実した。

#### 2. 感染症集団発生事例に対する実地疫学調査協力

平成17年度において、実地疫学専門家養成プログラム(FETP)は、以下の感染症集団発生事例に対して、地方自治体からの要請を受けて、調査協力を行った。

- 原因不明の急性脳症集団発生事例(新潟県、秋田県、山形県)(前年度から継続)
- 施設内VRE集団発生事例(京都府京都市山科区)(前年度から継続)
- 施設内病原性大腸菌O157感染症集団発生事例(大分県臼杵市)
- 施設内病原性大腸菌O157感染症集団発生事例(香川県香川市)

#### 3. 研修活動

FETP のトレーニングの一環として、初期導入研修前期(John Kobayashi, Richard Dicker; 4月) 初期導入研修後期(John Kobayashi, Fadzilah Kamaludin; 7-8月)とともに、国際的なインフルエンザ予防対策およびSARS対応(Timothy Uyeki; 7月) 感染症対策の国際的なネットワーク(Thomas Grein; 11月) HIV/AIDSに関する予防対策(Dawson Heffelfinger; 1月) 米国における検疫システム(Peter Houck; 2月)に関するセミナーを開催した。

#### 4. 教育研修経験

教育経験のための研修として、全国感染症危機管理研

修会での講義、地方自治体の感染症危機管理研修会（岩手県、秋田県、茨城県、東京都、愛知県、三重県、大分県、熊本県、沖縄県）での講義・討論をおこなった。

## 5. 感染症疫学研究

平成17年度に研修終了した6期生が以下の長期プロジェクト研究発表をおこなった。

「原因不明脳症事例の介入の評価」山口亮

「EHEC 関連溶血性尿毒症症候群について」神垣太郎

「食肉衛生検査所における EHEC 検査の現状」松館宏樹

「国内で感染したことが疑われるコレラ症例」太田正樹

「手足口病重症化リスクについて」鈴木葉子

「サーベイランス報告遅れの現状と対策」森山和郎

「沖縄県麻疹全数把握事業のサーベイランス評価」登坂直規

「2005年細菌性赤痢のサルメットのサーベイランスについて」小林幹子

「症候群サーベイランス有用性の評価」三村敬司

## 6. 感染症サーベイランス活動

毎週ごとに収集されるサーベイランス報告対象疾患の情報を監視・解析し、必要に応じて地方自治体とともに公衆衛生的介入を実施した。

CJD サーベイランスに対する情報交換・還元

HIV / AIDS 発生動向に基づいた提言

ウイルス性肝炎（特に A 型および E 型）の集積についての注意喚起と提言

風疹症例増加に対する予防接種推奨とそれに伴う先天性風疹症候群の対応、等

## 7. 感染症情報の還元

感染症サーベイランス、感染症集団発生事例に対する実地疫学調査協力などで得られた情報を病原体検出情報（月報）感染症週報などを通じて一般住民、公衆衛生従事者などに還元した。また、インフルエンザ流行時期（10月～3月）には、一般住民からのインフルエンザに関する問い合わせ、公衆衛生・医療関係者からの SARS、鳥インフルエンザ等に関する問い合わせに対応した。

[岡部信彦、FETP6 期 & 7 期、感染症情報センタースタッフ一同]

## II. 危機管理研修会、健康危機管理保健所長等研修会

### 1. 危機管理研修会

感染症情報センターが事務局を務め、平成9年度より定期的に実施している感染症危機管理研修会を9月29

日、30日に開催した。全国の衛生主幹部局等から122人が受講者として参加した。研修内容として、国の健康危機管理体制、内閣府食品安全委員会の緊急時対応、地域保健見直し、福祉施設の感染症対策、感染症法関連、動物由来感染症対策など国の保健行政に関する講演、日本脳炎・消毒・鳥/新型インフルエンザ等の感染症トピックス、集団発生事例調査対応事例紹介、感染症集団発生時の疫学調査に関するケーススタディ演習等を行った。

[感染症情報センター一同]

### 2. 健康危機管理保健所長等研修会

第1回から第4回健康危機管理保健所長等研修会において、SARS、鳥インフルエンザ、ウエストナイル熱および脳炎など、新興・再興感染症の動向を中心とした感染症の現状と対策、対応について講義を行った。

[重松美加、谷口清州]

## III. 国立保健医療科学院による研修

### 1. 特定研修新興再興感染症技術研修

平成17年度特定研修新興再興感染症技術研修として、平成17年9月12日から16日に感染症研究所村山庁舎で研修会を実施した。ノロウイルス検査の現状に対応した新しい知識及び技術を習得することを目的とし、地方衛生研究所または保健所でウイルスに関する業務につく21名が参加した。

[西尾治、伊藤健一郎、杉山和良(バイオセーフティ管理室)、篠原克明(バイオセーフティ管理室)、永田典代(感染病理部)、波多野焯持(感染病理部)、大瀬戸光明(愛媛県立衛生環境研究所)、杉枝正明(静岡県環境衛生科学研究所)、木村博一(群馬県衛生環境研究所)、西田知子(山口県環境保健研究センター)、吉澄志磨(北海道立衛生研究所)、篠原美千代(埼玉県衛生研究所)]

### 2. 特別課程細菌コース

平成17年10月25日から11月18日まで、国立保健医療科学院及び感染症研究所村山分室で研修会を行った。本研修は、保健所あるいは地方衛生研究所において細菌検査業務に従事するものを対象として、細菌学の体系的な理解と現状に対応した新しい知識及び技術の習得を目的としている。対象は経験の少ない初級者を対象としている。保健所8名・地方衛生研究所13名・中核市保健所5名の合計26名であった。本研修は感染症情報センターを初めとして、感染研関連各部室、名古屋検疫所、東京都安全健康研究センター、神奈川県衛生研究所、結核研究所、帝京大学、東京顕微鏡院、海事検定

協会、エムエス機器の支援・協力を得て遂行された。

[ 伊藤健一郎、西尾治、重松美加、飯田真里子 ]

### ・その他の研修の実施

#### 1．国立感染症研究所安全連絡協議会研修

わが国の日本脳炎と日本脳炎ワクチンに関する最近の話題について。2005.9.13.

[ 多屋馨子 ]

#### 2．希少感染症診断技術向上事業に関する業務

平成17年度は対象疾患として、ウエストナイル熱・日本脳炎と媒介蚊、高病原性鳥インフルエンザ、ノロウイルス、結核/その他の抗酸菌感染症、動物由来感染症、劇症型溶血性レンサ球菌、ダニ媒介性感染症、エキノコックスが取り上げられた。研修会は平成18年2月、当感染研で2日間開催され、73地研、127名が参加した。それぞれの疾患は細菌第一部、獣医科学部、ウイルス第一部、ウイルス第二部、ウイルス第三部、寄生動物部、昆虫医科学部、生体防御部の協力により行われた。また、本事業の一環として、レファレンスセンター(カンピロバクター、エンテロウイルス、レジオネラ、寄生虫、アデノウイルス、ジフテリアおよび百日咳、レンサ球菌)の運営が国立医薬品食品衛生研究所、東京都健康安全研究センター、感染研ウイルス第二部、細菌第一部、細菌第二部、寄生動物部、感染症情報センターおよび各地方衛生研支部の協力でなされた。

[ 上野久美、多屋馨子、岡部信彦、倉根一郎(ウイルス第一部) ]

#### 3．インフルエンザ研修

厚生労働省血液対策課主催の都道府県インフルエンザワクチン担当者会議において、インフルエンザの疫学的動向について、研修を実施した。

[ 多屋馨子、安井良則、岡部信彦 ]

#### 4．厚生労働省、日本臨床微生物学会主催平成17年度院内感染対策研修

臨床検査技師対象-院内ウイルス感染対策.2005.9.17.(神戸大学)

[ 多屋馨子 ]

#### 5．文部科学省 健康教育指導者中央研修会

[ 多屋馨子 ]

#### 6．社団法人日本感染症学会主催、日本臨床微生物学会後

#### 援院内感染対策講習会

[ 多屋馨子 ]

#### 7．平成17年度国公立私立大学病院臨床検査技術関係職員研修

[ 多屋馨子 ]

### その他

#### ・情報提供及び広報活動

##### 1．電話、メールによる問い合わせ業務

予防接種、人獣共通感染症、SARS、インフルエンザ、鳥インフルエンザ、風疹、麻疹、ポリオ、下痢症ウイルス等、その他感染症に関する電話、メールによる問い合わせに対応した。年間の問い合わせ件数は電話約5000件、メール約500件である。

[ 岡部信彦、谷口清州、重松美加、森兼啓太、田中政宏、木村幹男、多田有希、安井良則、多屋馨子、新井智、佐藤弘、稲田敏樹、伊藤健一郎、西尾治 ]

##### 2．来所者への感染症情報センターの活動および感染症対策に関する情報提供と広報

国内生徒、学生の修学旅行や社会見学、などの来所時に、感染症情報センターの活動、国内感染症の発生動向、国内および国際連携による感染症対策の現状、SARSを含む国際感染症対策、パンデミック対策などについての情報提供、広報業務をおこなった。

[ 岡部信彦、谷口清州、重松美加、森兼啓太、田中政宏、砂川富正、中島一敏、木村幹男、多田有希、多屋馨子 ]

##### 3．メディアへの対応

メディアからの問い合わせに対しては、通常は情報センター内に於いて問い合わせ内容別に担当者を決め、取材等に依頼に応じている。

平成15年SARS対応時には、メディアからの取材依頼殺到に応じるため、1週間に1回定例としてSARSに関し、行政発表とは異なった科学的視点からの解説、状況説明を行った。これをきっかけにメディア希望者に対して毎月1回、情報センター・メディア感染症情報交換会として、感染症情報の提供、解説、意見交換を行っている。話題として、病原体検出情報(IASR)の特集を取り上げるほか、その都度のトピックスを取り上げている。また緊急的に伝え他方がよいと考えられた時(例：ウエストナイル熱本邦初発症例)には、臨時に開催し、コメントを出すようにしている。感染研としての公式発表ということではなく、あくまで情報センターからの科学的情

報提供、としている。情報提供は主に感染症情報センターおよび適時情報センタースタッフとしているが、IASR 特集のように感染研内部の担当専門者に依頼することもある。本会の登録者は 60-70 人程度となっており、Risk communication の一手段として、メディア側の協力も得て継続、実施している。(岡部信彦、情報センタースタッフ一同)

## II. 血清銀行に関する業務

### 1. 血清の保管

感染症流行予測調査事業のため各都道府県において収集された血清の一部を国内血清銀行に受け入れ、保管した。平成 17 年度に受け入れた血清は、計 3,371 本であった。また、平成 17 年職員血清として計 502 本の血清を受け入れ保管した。

[荒木和子、田中幸江、丹生隆、佐藤弘、上野久美、多屋馨子、岡部信彦]

### 2. 研究目的での血清の払い出し

使用申請があった 2 研究に対して計 1,199 本の分与を行った。

[荒木和子、田中幸江、丹生隆、佐藤弘、上野久美、多屋馨子、岡部信彦]

### 3. その他

血清銀行事務局として血清銀行を倫理委員会に申請し 10 月 12 日付けで承認を得た。

血清銀行運営委員会規程を作成し血清銀行運営委員会および部長会の承認を得、10 月 6 日より施行となった。  
[荒木和子、多屋馨子、岡部信彦]

### 4. 保管血清の管理

[荒木和子、田中幸江、丹生隆、佐藤弘、上野久美、多屋馨子、岡部信彦]

## . 予防接種に関する業務

### 1. 予防接種情報公開に関する業務

(1) 感染症情報センターHP 内に日本の予防接種スケジュール 2005 を公開した。

(2) 感染症情報センターHP 予防接種のページを更新した。

[多屋馨子、松岡静香、佐藤弘、岡部信彦]

### 2. 日本ワクチン学会に関する業務

ニュースレター事務局業務を行った。著者への連絡、原稿収集、ワクチン関連トピックスを担当し、その原稿を作

成した。

[岡部信彦、多屋馨子]

## IV. 公的機関の委員

### 新型インフルエンザ専門家会議委員

[岡部信彦、森兼啓太、谷口清州、田中政宏、多屋馨子、安井良則、中島一敏、大日康史、上野久美]

### 感染症発生動向調査システム開発評価委員会委員長

[谷口清州]

### 厚生労働省 予防接種健康被害認定部会/分科会

[岡部信彦(委員長)、多屋馨子(委員)]

### 厚生労働省 予防接種後副反応・健康状況調査検討会委員

[岡部信彦、多屋馨子]

### 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会

[多屋馨子(専門委員)、西尾治(乳肉水産食品部会臨時委員)]

### 独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員

[多屋馨子]

### 内閣府食品安全委員会専門委員

[西尾治]

## . 学校(大学、大学院等)における教育への参加

以下の教育機関より、非常勤講師、客員教授などの委嘱(併任、兼任)を受け、医学教育等への参加を積極的に行っている。

岡部信彦

- ・ 東京慈恵会医科大学客員教授(小児科講座)
- ・ 首都大学東京客員教授(大学院・国際保健学)
- ・ 東京大学非常勤講師(大学院医学系研究科・国際保健学)
- ・ 名古屋大学非常勤講師(医学部感染症科)
- ・ 国立看護大学非常勤講師(感染症学)
- ・ 大阪市立大学非常勤講師(大学院医学研究科・医学部、公衆衛生学)
- ・ 共立薬科大学大学院非常勤講師(感染症学)
- ・ 京都大学医学部非常勤講師(感染病学)
- ・ 京都大学大学院医学研究科非常勤講師(国際保健学)
- ・ 東北大学医学部非常勤講師(感染症制御学)
- ・ お茶の水女子大非常勤講師(化学・生物総合管理の再教育講座)

木村幹男

- ・ 岡山大学大学院(薬学系)(日本における感染症サーベイランス)

多屋馨子

- ・ 東京慈恵会医科大学医学部(微生物学講座第一(臨

感染症情報センター

床基礎医学ウイルスと感染（ワクチンの基礎と応用）

- ・ お茶の水女子大非常勤講師（化学・生物総合管理の再教育講座）

西尾治

- ・ 東京大学医学部非常勤講師（ウイルス学、公衆衛生学）

安井良則

- ・ 大阪市立大学医学部非常勤講師（臨床検査医学（院内感染））

大山卓昭

- ・ 京都大学大学院社会医学系非常勤講師（環境科学『フィールド・エビデミオロジー』）
- ・ お茶の水女子大非常勤講師（化学・生物総合管理の再教育講座）

中島一敏

- ・ 大分大学医学部非常勤講師（微生物学講義）

大日康史

- ・ 慶應義塾大学医学部非常勤講師（医療経済学）
- ・ 呉大学看護学部非常勤講師（医療経済学）

- ・ 大阪市立大学大学院医科学研究科非常勤講師（医療経済学）

- ・ 岐阜大学大学院医学研究科非常勤講師(医療経済学)

東京慈恵会医科大学医学部4年生、6年生の学外実習機関として学生教育実施

その他、医学部およびその他の医育機関の学生より見学研修の依頼を受け、実施している。

**検査実施状況**

	行政	研究	合計
ウイルス分離同定	0	29	29
核酸・抗原検出	3	80	83
血清反応	0	1490	1490
合計	3	1599	1599

**研究員・研究生**

氏名	身分	期間	出身
斉藤優子	協力研究員	H18.2.1-H18.3.31	(株)中部衛生検査センター
吉田健介	協力研究員	H17.8.29-H17.9.30	(財)日本食品衛生協会
宗村徹也	協力研究員	H17.5.1-	横浜市食肉衛生検査所
長谷川斐子	客員研究員	H17.4.1-	元職員
加藤由美子	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	バイオマトリックス研究所
森下高行	協力研究員	H17.4.1-	愛知県食品衛生検査所
太田正樹	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	札幌市保健福祉局
神垣太郎	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	岩手県立磐井病院
小林幹子	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	富山県新川厚生センター
鈴木葉子	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	東京女子医大第二病院小児科
登坂直規	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	日本医大高度救命救急センター
松舘宏樹	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	岩手県食肉衛生検査所
三村敬司	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	陸上自衛隊幕僚監部衛生部
森山和郎	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	大阪府茨木保健所
山口亮	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	北海道保健福祉部
阿保満	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	東京都福祉保健局島しょ保健所
鷲見宏	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	兵庫県山崎健康福祉保健事務所
鈴木智之	協力研究員	H17.4.1-H18.3.31	産業医大医学部寄生虫熱帯医学

## 発表業績一覧

### 誌上発表

#### 1. 欧文発表

- 1) Okabe N and Members of SARS Response Team : Severe Acute Respiratory Syndrom (SARS) : Summary of SARS outbreak, response in Japan, and actions at Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases. JAMJ 48(6):291-300, 2005.
- 2) Suzuki S, Sakai T, Tanabe, N and Okabe N. Peak rotavirus activity shifted from winter to early spring in Japan. Pediatric Inf Dis J 24(3):1-4, 2005.
- 3) Hashimoto S, Kawado M, Seko R, Kato M, Okabe N.: Bias of vaccination coverage in a household questionnaire survey in Japan. J Epidemiol. 2005;15(1):15-9.
- 4) Banik U, Adhikary AK, Suzuki E, Inada T, Okabe N.: Links Multiplex PCR assay for rapid identification of oculopathogenic adenoviruses by amplification of the fiber and hexon genes. J Clin Microbiol. 2005 Mar;43(3):1064-8.
- 5) Sakuma M, Urashima M, Okabe N.: Verocytotoxin-producing Escherichia coli, Japan, 1999-2004. Emerg Infect Dis. 2006 Feb;12(2):323-5.
- 6) Kanemitsu K, Kunishima H, Inden K, Hatta M, Saga T, Ueno K, Harigae H, Ishizawa K, Kaku M, Assessment of RAISUS, a novel system for identification and antimicrobial susceptibility testing for enterococci. Diagnostic Microbiology and Infectious Disease, vol. 53, pp. 23-27, 2005.
- 7) Hirakata Y, Arisawa K, Nishio O, Nakagomi O, Multifactorial spread of gastroenteritis outbreaks attributable to a single genogroup II norovirus strain from a tourist restaurant in Nagasaki, Japan. J Clin Microbiol, vol.43, pp.1093-1098, 2005.
- 8) Phan TG, Okame M, Nguyen TA, Nishio O, Okitsu S, Ushijima H, Genetic of Sapovirus in fecal specimens from infants and children with acute gastroenteritis in Pakistan. Arch Virol, vol.150, pp.371-377, 2005.
- 9) Seto Y, Iritani N, Kudo H, Kaida A, Murakami T, Haruki K, Nishio O, Ayata M, Ogura H, Genotyping of norovirus strains detected in outbreaks between April 2002 And March 2003 in Osaka City, Japan. Microbiol Immunol, vol.49, pp. 275-283, 2005.
- 10) Saitoh M, Shinkawa N, Shimada S, Kato M, Shinohara M, Sadamasu K, Hasegawa M, Kozawa K, Nishio O, Kimura H, Sequence and phylogenetic analysis of envelope glycoprotein (E1) gene in rubella virus detected in Japan, 2004, Microbiol Immunol, vol.50, pp. 179-185, 2006.
- 11) Ohkusa Y, Shigematsu M, Taniguchi K, Okabe N, An Experimental OTC Surveillance in Japan, MMWR, vol.54, supplement, pp.47-52, 2005.
- 12) Ohkusa Y, Taniguchi K, et al. , Prediction of Outbreak in Smallpox and Evaluation of Control Measure Policy in Japan, by using Mathematical Model, Journal of Infection and Chemotherapy , vol.11 (2), pp.71-80, 2005.
- 13) Ohkusa Y, Policy evaluation for the subsidy for influenza vaccination in elderly, Vaccine, vol.23, pp. 2256-2260, 2005.
- 14) Ohkusa, Sugawara: Cost-Effectiveness Analysis and Its Application for Policy Evaluation for Medicine or Public Health, Public Policy review ,Policy Research Institute Ministry of Finance,Japan,2(1),January,2006
- 15) Konishi T, Watanabe T, Morikane K, Fukatsu K, Kitayama J, Umetani N, Kishimoto J, Nagawa H. Prospective surveillance effectively reduced rates of surgical site infection associated with elective colorectal surgery at a university hospital in Japan. Infect Control Hosp Epidemiol, vol. 27, pp.526-528, 2006.
- 16) Editorial Committee of Findings of Infectious Agents in Japan. Annual Report on Findings of Infectious Agents in Japan, 2001. Jpn J Infect Dis,55(Suppl), 2002.
- 17) Miura T, Kimura M, Koibuchi T, Endo T, Nakamura H, Odawara T, Wataya Y, Nakamura T, Iwamoto A, Clinical characteristics of imported malaria in Japan: analysis at a referral hospital, Am J Trop Med Hyg, vol.73, pp. 599-603, 2005.
- 18) Yoshikawa H, Kimura M, Ogawa M, Rolain J-M, Raoult D. Laboratory- confirmed Mediterranean spotted fever in a Japanese traveler to Kenya. Am J Trop Med Hyg, vol.73, pp. 1086-1089, 2005.
- 19) Kimura M, Kawakami K, Hashimoto M, Hamada M. Malaria prevention and stand-by emergency treatment among Japanese travelers, Travel Med Infect Dis , vol.4, pp.81-85,2006.

20) Laurie T. Krug, Chong-Gee Teo, Tanaka-Taya K, Inoue N, Chapter 6. Newly identified human herpesviruses: HHV-6, HHV-7, and HHV-8. New and Evolving Infections of the 21st Century. Springer-NY. 2006.

## 2. 和文発表

- 1) 岡部信彦「ウイルスによる新興感染症とその対策」 Drug Delivery System 20(4):467-470, 2005.
- 2) 岡部信彦「予防接種」小児医療研修のための基礎知識(改訂3版)P.31-39 監修・衛藤義勝 三共株式会社 2005.5.
- 3) 岡部信彦「スポーツ活動と感染症予防」整形・災害外科 48(5):677-686, 2005.
- 4) 岡部信彦「国際感染症が重要となった背景」 Modern Physician 25(5):481-486, 2005.
- 5) 岡部信彦「学校におけるリスクマネージメント/感染症対策」日本医師会雑誌 134(4)別冊:32-36, 2005.
- 6) 岡部信彦「学校/幼稚園保育園等での感染症対策, 登校登園停止など」小児科臨床 58(9):1929-1934, 2005.
- 7) 岡部信彦「感染症マニュアル 全面改訂第4版」監修 山崎修道 編著 小早川隆敏 スパイラル出版 2005.11.
- 8) 岡部信彦「SARS -その後-」小児科 46(11):1891-1896, 2005.
- 9) 岡部信彦「新興呼吸器感染症とその対策」結核 80(11):701-708, 2005.
- 10) 岡部信彦「予防接種(麻疹、風疹)の変更およびそれに関連する麻疹、風疹ワクチン勧奨と接種控えの問題」小児科臨床 58(11):2309-2312, 2005.
- 11) 岡部信彦「日本脳炎ワクチン問題-その背景-」ウイルス 55(2):303-306, 2005.
- 12) 岡部信彦「ジフテリア」今日の治療指針 2006 P.136 総編集・山口 徹、北原光夫、福井次夫 医学書院 2006.1.
- 13) 岡部信彦「日本の感染症サーベイランス」公衆衛生 70(1):56-59, 2006.
- 14) 岡部信彦「海外渡航時、留学時の予防接種スケジュール」予防接種マニュアル 改訂版 P.47-55 編著・加藤達夫 新興医学出版 2006.2.
- 15) 岡部信彦「インフルエンザの発生動向(サーベイランス)」感染症学雑誌 80(2):59-63, 2006.
- 16) 田中 毅、岡部信彦「セラチア敗血症の集団発生事例」臨床医 31(8):1472-1474, 2005.
- 17) 加藤昌弘、川戸美由紀、世古留美、橋本修二、岡部信彦「予防接種の接種月齢、接種順と接種完了率」日本公衆衛生雑誌 53(2):105-111, 2006.
- 18) 田中 毅、岡部信彦「マールブルグ病の発生(アンゴラ)と検疫」小児科 47(2):213-218, 2006.
- 19) 水野泰孝、岡部信彦「渡航地域ごとの特殊な感染症」小児科 47(2):179-185, 2006.
- 20) 新井智、鈴木里和、多屋馨子、大山卓昭、小坂 健、谷口清州、岡部信彦「1999年2002年までの日本におけるヒトエキノコックス症サーベイランスの集計と評価-感染症発生動向調査から-」感染症学雑誌, vol.79,pp.181-190, (感染症学雑誌 vol.77,pp.957-964,2003.の修正・改訂項),2005.
- 21) 斉藤若菜、永井英明、鈴木純子、益田公彦、田村厚久、長山直弘、赤川志のぶ、川辺芳子、町田和子、倉島篤行、四元秀毅、斉藤 剛、新井 智、岡部信彦「慢性呼吸器疾患患者における23価肺炎球菌ワクチン接種前後の血清型特異抗体濃度の検討」日本呼吸器会雑誌, vol. 43,pp.277-282,2005.
- 22) 新井智「動物由来ウイルス感染症対策としてのサーベイランス」日本臨床, vol.63,pp.2097-2102,2005.
- 23) 佐藤弘、多屋馨子、岡部信彦「ヒトメタニューモウイルスによる呼吸器感染症」呼吸, vol.24,pp.830-834,2005.
- 24) 佐藤弘、多屋馨子「インフルエンザの抗体保有状況調査と流行予測(感染症流行予測調査事業より)」インフルエンザ, vol.6,pp.31-39,2005.
- 25) 荒木和子、岡部信彦「研修医のための検査データの読み方、ウイルス検査」小児科診療, vol.68,pp.811-816,2005.
- 26) 多屋馨子「日本におけるワクチンの現状と今後最近のわが国の麻疹の現状とワクチン接種の今後」日本小児臨床薬理学会雑誌, vol.18(1), pp.35-41, 2005.
- 27) 多屋馨子、馬場宏一、佐藤弘、上野久美、安井良則、新井智、奥野良信、岡部信彦:感染症緊急提言 改正麻疹「風疹ワクチンはどう変わるか」小児科診療,2005,vol.58(12),pp. - ,2005.
- 28) 多屋馨子「知っておきたい医学の知識 Q&A . 予防接種は有効か」,学校保健フォーラム, vol.9(86), pp.72-73, 2005.
- 29) 森島恒雄、富樫武弘、中村祐輔、横田俊平、田代真人、岡部信彦、奥野良信、布井博幸、山口清次、細矢光亮,

- 市川光太郎,水口 雅,河島尚志,塩見正司,市山高志,玉腰暁子,佐多徹太郎,木村 宏,山田至康,宮崎千明,黒木春郎,鍵本聖一,岩崎琢也,栗原まな,奥村彰久,前田明彦,中野貴司,荒川浩一,尾内一信,藤井史敏,安井良則,坂下裕子,黒川雅代子,瀬藤万里子,井上ひとみ,多屋馨子,岡田晴恵,二宮伸介,山下信子,長尾隆志,和田智顕,厚生労働省インフルエンザ脳症研究班「インフルエンザ脳症ガイドライン」小児感染免疫, vol.17(4), pp. 341-366, 2005 .
- 30) 加藤達夫,岡田賢司,庵原俊昭,宇加江進,古賀伸子,住友眞佐美,多屋馨子,馬場宏一,三田村敬子,日本小児保健協会予防接種委員会「集団免疫率からみる MR ワクチン 2 回接種法の誤解」小児保健研究, vol.64(6), pp. 820-821, 2005 .
- 31) 多屋馨子「輸入感染症」小児内科, vol.37 (増刊), pp.611-621,2005 .
- 32) 多屋馨子「インフルエンザワクチンの効果分析」内科, vol.96(5), pp.813-819, 2005 .
- 33) 多屋馨子「免疫不全状態におけるウイルス感染」小児科診療, vol. 68(11), pp.2019-2024, 2005 .
- 34) 多屋馨子「わが国における風疹予防接種の歴史と今後」チャイルドヘルス, vol.8(9),pp.643-648,2005 .
- 35) 多屋馨子,橋本迪子「これからの予防接種 海外渡航者の予防接種」小児内科, vol.37(7),pp.889-896,2005 .
- 36) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題 . 臨床と微生物」vol.32(4), pp. 390-392, 2005 .
- 37) 多屋馨子「日本から輸出している感染症」Modern Physician, vol.25(5), pp. 621-625, 2005 .
- 38) 多屋馨子「サイトメガロウイルス感染症」日本臨床,vol.63(増刊4), pp.528-533, 2005 .
- 39) 多屋馨子,岡部信彦「わが国における感染症の現状 . 産婦人科治療」vol.90(増刊),pp.469-476, 2005 .
- 40) 多屋馨子「ワクチンによるインフルエンザの予防」総合臨床,vol.54(2), pp. 279-287, 2005 .
- 41) 上野久美,多屋馨子,岡部信彦「予防接種とその効果」こころのオアシス, vol .33, pp.16-19, 2005 .
- 42) 上野久美,岡部信彦「鳥インフルエンザについて」心とからだの健康, vol. 96,pp.70-72,2006 .
- 43) 上野久美,岡部信彦「SARS . 侵襲と免疫」vol .4,pp.6-9, 2005 .
- 44) 上野久美,多屋馨子「新 2 種混合ワクチン-麻疹・風疹混合生ワクチン(MR ワクチン)」クリニカルプラクティス, vol.3,pp.11-15, 2006 .
- 45) 廣瀬健二,伊藤健一郎,渡邊治雄「サイクリングブローブ法を利用したチフス菌・パラチフス A 菌の *gyrA* 変異検出方法の開発」Bio View, No.49, pp.16-21, 2005 .
- 46) 伊藤健一郎,山下和予,吉川昌江,野地元子,齋藤剛仁,岡部信彦,寺嶋淳,廣瀬健二,渡邊治雄「赤痢菌同定の問題点：アンケート調査結果」病原微生物情報 (IASR) vol.26,pp.94-96, 2005.
- 47) 入谷展弘, 勢戸祥介, 春木孝祐, 西尾治, 久保英幸, 改田厚, 村上司, 綾田稔, 小倉壽「市販生カキからのノロウイルスおよび A 型肝炎ウイルスの検出」生活衛生, vol.49, pp.279-287, 2005.
- 48) 西尾治, 古屋由美子, 大瀬戸光明「ウイルス性食中毒の予防—ノロウイルス A型肝炎ウイルス—」食品衛生研究, vol.55(4),pp.19-24, 2005.
- 49) 西尾治, 山下育孝, 宇宿秀三「ノロウイルスによる食中毒, 感染症」食品衛生研究, vol.55(10),pp.7-16, 2005.
- 50) 西尾治, 杉枝正明「ノロウイルスによる食中毒について」乳酸菌ニュース, vol 447,pp. 3-6, 2005.
- 51) 西尾治「ノロウイルスの感染と遺伝子迅速検査の現状と期待」The Medical Journal, vol.915,p.11, 2005.
- 52) 西尾治「ノロウイルスによる感染症と食中毒」日本医事新報, vol.4221,p. 105, 2005.
- 53) 西尾治「ノロウイルス感染予防のための手指消毒」日本医事新報, vol. 4234,pp.98-99, 2005.
- 54) 西田知子, 岡本玲子, 中尾利器, 松村健道, 大瀬戸光明, 西尾治「山口県内におけるノロウイルス胃腸炎集団発生事例および市販生食カキの汚染状況」獣医公衆衛生研究, vol.7,pp. 24-25, 2005.
- 55) 西尾治「広範囲 血液・尿化学検査免疫学的検査—その数値をどう読むか—ノロウイルス」日本臨床, vol.63 増刊号 7,pp. 332-333, 2005.
- 56) 藤本嗣人, 近平雅嗣, 吉田真策, 宗村徹也, 岡藤輝夫, 岡藤隆夫, 吉田弘, 西尾治「コクサッキーウイルス A 群 6 型によると考えられた脳炎ケースの臨床および分子疫学的検討」臨床とウイルス, vol.33,pp. 141-145, 2005.
- 57) 田中俊光, 西尾治「輸入生鮮魚介類からのノロウイルス遺伝子検出状況」日本獣医公衆衛生学会誌, vol.58,pp. 627-630, 2005.
- 58) 西尾治, 秋山美穂, 愛木智香子, 杉枝正明, 福田伸治, 西田知子, 植木洋, 入谷展弘, 篠原美千代, 木村博一「ノロウイルスによる食中毒について」

- 食品衛生学雑誌, vol. 46(6), pp. 235-245, 2005.
- 59) 大日康史,重松美加,谷口清州「2004/05 シーズンのインフルエンザ流行のインパクト」病原微生物情報,vol.26(11), pp.7-9, 2005.11.
- 60) 大日康史,菅原民枝「医療・公衆衛生分野の費用対効果分析」ファイナンシャルレビュー,財務省, vol.77. pp. 164-195, 2005.7.
- 61) 大日康史,西村龍夫「Hib ワクチン導入の医療経済学」外来小児科, vol.8(2),pp.198-200, 2005.
- 62) 菅原民枝,大日康史他 2 名「禁煙支援プログラムの需要分析」医療と社会, vol.14(4), pp.127-144, 2005.
- 63) 大日康史「インフルエンザの流行状況把握システム」季刊インフルエンザ,vol.6(1), pp.51-60, 2005.
- 64) 大日康史「パンデミックプランニングの最先端: 数学的モデルの政策への応用」季刊インフルエンザ, vol.6(1), pp.61-69,2005.
- 65) 森兼啓太,岡部信彦「手術部位感染サーベイランスに関する全国実態調査」環境感染,vol.20(4), pp.275-278, 2005.
- 66) 森兼啓太「大腸外科における手術部位感染」日本医事新報,vol.4214, pp.85, 2005.
- 67) 森兼啓太「院内感染予防」治療,vol. 87(2), pp.351-355, 2005.
- 68) 森兼啓太「米国における感染制御教育システム・認定制度」INFECTION CONTROL, vol.14(5), pp. 432-435, 2005.
- 69) 森兼啓太「CDC の最近の状況」感染と消毒,vol.12(1),pp.19-23, 2005.
- 70) 森兼啓太「院内感染とその対策の基礎知識」函館五稜郭病院医誌,vol.13, pp.2-5, 2005.
- 71) 森兼啓太「周術期の抗菌薬予防投与」EBNursing vol.5(3),pp.351-353, 2005.
- 72) 森兼啓太「数字で見る CDC」INFECTION CONTROL, vol. 14(7), pp.588, 2005.
- 73) 森兼啓太「NNIS 改訂: アメリカにおける 21 世紀の医療への対応」感染制御,vol.1(3), pp.223-227, 2005
- 74) 森兼啓太「第 15 回 SHEA 年次集会に参加して」Carlisle, vol.10(2), pp.11, 2005.
- 75) 森兼啓太「病院感染サーベイランスと経済効果」INFECTION CONTROL, vol.14(10), pp. 903-906, 2005.
- 76) 森兼啓太「APIC2005」印象記」INFECTION CONTROL, vol.14(11), pp. 1032-1036, 2005.
- 77) 森兼啓太「手術部位感染サーベイランス-CDC 研修で学んだこと-」感染症, vol.35(6),pp. 236-240, 2005.
- 78) 森兼啓太「鳥インフルエンザと新型インフルエンザの大流行」Nurselink, vol.13, pp.5, 2005.
- 79) 森兼啓太「パンデミックに関して私たちが今知っておきたいこと」INFECTION CONTROL,vol.15(1),pp. 4-7, 2006.
- 80) 森兼啓太「MRSA,VRE などの多剤耐性菌」感染制御,vol.2(1),pp.53-57, 2006.
- 81) 森兼啓太「介護施設でのノロウイルス集団」感染事例 病院設備, vol. 48(2), pp. 126-127, 2006.
- 82) 森兼啓太「感染制御: 米国 CDC の動向と日本のトピックス」病院設備,vol. 48(2),pp. 194-195, 2006.
- 83) ポール橘谷,太田正樹「ニパウイルス感染症」日本臨床,vol.63(12), pp. 2143-2153, 2005.
- 84) 大山卓昭「日本の FETP についての背景と概要」, 公衆衛生, vol. 70(3), pp. 215-218,2005.
- 85) 大山卓昭「国内におけるサーベイランスの強化とアウトブレイク対応」Modern Physician,vol.25(5), pp.487- 491, 2005.
- 86) 谷口清州「WHO におけるサーベイランス強化とアウトブレイク対応」モダンフィジシャン,vol.25(5), pp.499 -503, 2005.5 .
- 87) 谷口清州「GOARN」感染症,vol. 35(3), pp.12-23, 2005.5.
- 88) 谷口清州「新興・再興感染症」臨床免疫学,日本臨床社, pp.540-548, 2005.4 .
- 89) 谷口清州「ヒト感染を視点においた日本における鳥インフルエンザ対策の現状」日中医学,vol.20 (2), pp.27-31, 2006.
- 90) 谷口清州「鳥インフルエンザの現状と対策」ヒューマンサイエンス,vol. 17(2), pp. 20-24, 2006.
- 91) 谷口清州「高病原性鳥インフルエンザの現状」日本薬剤師学会雑誌 vol. 58(2), pp.191-194, 2006.
- 92) 谷口清州「国際的な感染症対策ネットワーク」公衆衛生,vol. 70(2), pp. 128-131, 2006.
- 93) 谷口清州「SARS とトリ型インフルエンザへの対応」小児感染免疫,vol.17(3), pp.203-209, 2005.
- 94) 中島一敏「鳥インフルエンザ(ヒトでの感染)」Modern Physician, vol.25(5), pp.537-541, 2005 .
- 95) 重松美加, 菊池均, 木村幹男「航者感染症およびその取り組みの現状」化学療法の領域, vol. 21(10), pp. 1401-1407,2005 .
- 96) 重松美加「SARS: 重症急性呼吸器症候群」チャイル

- ドヘルス,vol.8(11) pp.36-37, 2005.
- 97) 国立感染症研究所,厚生労働省結核感染症課:病原微生物検出情報 月報 vol .26(4) ~ 27(3), 2005-2006.
- 98) 予防医学事業中央会「ヒト由来病原体の検出数(統計のページ)」予防医学ジャーナル,No5.404-415, 2005- 2006.
- 99) 多田有希,岡部信彦「風疹 - なぜ再び問題に - 」小児科,vol.46(4), pp. 497-505, 2005.
- 100) 多田有希「風疹と先天性風疹症候群はどんな病気か~感染と症状について~」チャイルドヘルス, vol .8(9), pp. 9-13, 2005.
- 101) 多田有希「鳥インフルエンザ」複十字, vol .305, pp.16-17,2005.
- 102) 多田有希「インフルエンザの予防について」複十字, vol.307, pp.28,2006.
- 103) 多田有希「新型インフルエンザ」複十字, vol .308, pp.26-27, 2006.
- 104) 多田有希,岡部信彦「ウイルス感染症の動向 - 感染症サーベイランスによる動向把握 - 」小児科診療, vol .68(11), pp.17-25, 2005.
- 105) 宮村和夫,日谷明裕,木村幹男「わが国における旅行医学の質の向上を目指して - 海外における取り組みから学ぶ」日本医師会雑誌,vol.134, pp. 1763-1769, 2005.
- 106) 木村幹男,狩野繁之「臨床検査 Yearbook 2006. 臨床微生物(感染症学)に関する基礎知識 - 認定臨床微生物検査技師への道しるべ - . 第2章 注目される感染症 7. マラリア」臨床病理レビュー, 特集,vol.134, pp.75-82, 2006.
- 107) 安井良則「インフルエンザの国内外での流行について」チャイルドヘルス, vol .8, pp.787-792, 2005.
- 108) 安井良則「保健所における麻疹ワクチン接種率向上に向けた取り組み」公衆衛生,vol .69,pp.889-894, 2005.
- 109) 多屋馨子,寺田喜平編集,「 予防接種と関連する法律」pp.191-222 . 実践予防接種マニュアル,中外医学社,東京,2005.11.
- 110) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 2.5)「麻疹(成人含む)、風疹(CRS ふくむ)、おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)」pp.46-55,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御,中外医学社,東京,2005.3.
- 111) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.11)「手足口病」pp.68-70,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御,中外医学社,東京,2005.3
- 112) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.12)「水痘」pp.70-71,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御,中外医学社,東京,2005.3.
- 113) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.13)「RSウイルス感染症」,pp.71-74,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御,中外医学社,東京,2005.3.
- 114) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.14)「咽頭結膜熱」pp.74-75,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御 . 中外医学社,東京,2005.3.
- 115) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.15)「急性出血性結膜炎」pp.75-76,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御 . 中外医学社,東京,2005.3.
- 116) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.16)「流行性角結膜炎」pp.76-77,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御 . 中外医学社,東京,2005.3.
- 117) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.17)「ヘルパンギーナ」pp.77-79 . ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御 . 中外医学社,東京,2005.3.
- 118) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.18)「無菌性髄膜炎」pp.79-82,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御,中外医学社,東京,2005.3.
- 119) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.19)「伝染性紅斑」pp.82-83,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御,中外医学社,東京,2005.3 .
- 120) 多屋馨子,倉田毅編著,第3章 3.20)「突発性発疹」pp.83-84,ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御,中外医学社,東京,2005.3 .
- 121) 多屋馨子,倉田毅編著,第4章 5「ジフテリア・破傷風・百日咳」pp.110-116, ネオエスカ感染症・アレルギーと生体防御,中外医学社,東京, 2005.3 .
- 122) 岡部信彦,多屋馨子,監修,2005「予防接種に関するQ&A 集」pp.1-98,社団法人細菌製剤協会,東京,2005.9.
- 123) 西尾治「ノロウイルスの知識と感染予防」pp.10-48,ノロウイルス現場対策,丸山務監修,幸書房,2006.
- 124) 森兼啓太「IV 手術部位感染」 pp.94-98 ,大久保憲(監修) エビデンスに基づいた ICT のための感染対策トレーニングブック,メディカ出版,東京, 2005.
- 125) 森兼啓太「V 手術部位感染サーベイランス」pp.131-136,大久保憲(監修) エビデンスに基づいた ICT のための感染対策トレーニングブック,メディカ出版,東京,2005.
- 126) 森兼啓太「II-2 SSI サーベイランスの実践」

- pp.23-31,竹末芳生(編集) 手術部位感染対策の  
実践,医薬ジャーナル社,東京, 2005.
- 127) 森兼啓太「 7 医療関連感染アウトブレイクへの  
対応」 pp.278-283,ICP テキスト編集委員会(監  
修),ICP テキスト メディカ出版,東京,2006.
- 128) 中島一敏「麻疹ゼロ対策と連動する風疹対策」  
pp.218-230 安次嶺馨,知念正雄(編集) 日本から  
麻疹が無くなる日—沖縄はしかゼロプロジェク  
ト活動の記録,日本小児医事出版,東京,2005.
- 129) 廣田良夫,葛西健(監修),小笹晃太郎他(編),中島一  
敏他(訳) 2005年版米国疾病管理センター(CDC)  
予防接種諮問委員会(ACIP)勧告 インフルエン  
ザの予防と対策 日本公衆衛生協会,東京,2005.
- 130) 国立感染症研究所 感染症情報センター,同 ウイ  
ルス三部 .インフルエンザパンデミック事前対策  
計画用チェックリスト,(翻訳),2005.4 .
- 131) 国立感染症研究所 感染症情報センター第一  
室,WHO の世界インフルエンザ事前対策計画:  
WHO の役割と前パンデミック期とパンデミック  
期における国家レベルへの対策への提言(翻訳),  
2005.5 .
- 132) 国立感染症研究所(倉田毅,杉山和良,重松美加,富  
田康浩,安藤秀二,篠原克明,高木弘隆),感染性物質  
の輸送規則に関するガイダンス  
(WHO/CDS/CRS/LYO/2005.22),(翻訳),2006.3 .
- 133) 木村幹男.«4. 原虫症、寄生虫症、マラリア(パ  
ベシア症を含む)» pp.178-180,今日の治療指針  
2006年版(山口 徹,北原光夫,福井次矢 総編集),  
医学書院,2006.
- 134) 安井良則「環境保健の実際」pp.77-83,保育保健活  
動の実際,全国社会福祉協議会,2006.
- encephalitis in Japan ; Seroepidemiology of  
antibodies to Japanese encephalitis virus in humans  
and swine. 第3回アジア小児感染症学会,2006.3 .
- 4) Morikane K, Edwards J, Tierney B, Horan T, Risk  
adjustment of surgical site infection rates following  
gastric surgery: Results from the National  
Nosocomial Infections Surveillance system. The  
15th annual scientific meeting of the Society for  
Healthcare Epidemiology of America. , Los  
Angeles, California, poster, 2005. 4.11.
- 5) Morikane K, Konishi T, Nishioka M, Harihara Y,  
Kobayashi H, Implementation and establishment of  
nationwide surgical site infections surveillance  
database in Japan. The 32nd annual educational  
conference of the Association for Professionals in  
Infection Control and Epidemiology, Baltimore,  
Maryland, poster, 2005 .6. 21.
- 6) Morikane K. Preventing surgical site infection. The  
15th meeting of the Chinese Medical Association,  
Division of Surgery. Jinan, China, seminar,  
2005.10.29.
- 7) Morikane K, Konishi T, Harihara Y, Nishioka M,  
Kobayashi H, Evaluation of nationwide surgical  
site infections surveillance system in Japan. The  
16th annual scientific meeting of the Society for  
Healthcare Epidemiology of America. Chicago,  
Illinois, oral presentation, 2006.3.19.
- 8) Suzuki Y. et al., Aggravation of Enterovirus Infection  
Represented by Hand-foot-and-mouth Disease: study  
on risk factors causing aggravation, (poster  
presentation).Third Asian Congress of Pediatric  
Infectious Disease, Philippines, 2006.
- 9) Kamigaki T. et al., A nosocomial outbreak of  
salmonella Enteritidis in Ibaraki, Japan 2004, (poster  
presentation). Third Biregional TEPHINET Scientific  
Conference, India, 2005.
- 10) Tosaka N. et al., An outbreak of shigellosis  
among airline passengers travelling from Hawaii to  
Japan, 2004, (poster presentation). Third Biregional  
TEPHINET Scientific Conference, India, 2005.
- 11) Moriyama K. et al., Outbreak of Multidrug- Resistant  
Enterococcus faecium with transferable vanB class  
Vancomycin Resistance in a hospital in Japan, (poster  
presentation). Third Biregional TEPHINET Scientific  
Conference, India, 2005.

## 学会発表

### 1. 国際学会

- 1) Tanaka-Taya K, Okabe N, Current situation in Japan  
with Rubella, Measles, Mumps and Chickenpox in  
Japan. 2nd International Workshop in Vaccinology,  
2005.7 .
- 2) Suzuki Y, Tanaka-Taya K, Nakashima K, Ohyama T,  
Ohkusa Y, Okabe N, Aggravation of Enterovirus  
Infection Represented by Hand-foot-mouth  
Disease(HFMD) and Herpangina- Study on risk  
factors for severe HFMD- , 第3回アジア小児感染  
症学会,2006.3 .
- 3) Satoh H, Tanaka-Taya K, Okabe N, Japanese

- 12) Yamaguchi R. et al., A multi- prefectural outbreak of acute encephalopathy of unknown etiology in Northern Japan, (poster presentation). Third Biregional TEPHINET Scientific Conference, India, 2005.
  - 13) Ohkusa Y, Shigematsu M, Taniguchi K, Second Year of the Surveillance on Over-the-Counter Medication Sales Data in Japan, 2005 Syndromic Surveillance Conference, 2005.9.
  - 14) Ohkusa Y, Tammy S, Sugiura H, et al., Experimental Syndromic Surveillances in Japan Using Three Aspects: OTC, Outpatients Visits and Ambulatory, 2005 Syndromic Surveillance Conference, 2005.9.
  - 15) Ohkusa Y, An Experimental Syndromic Surveillance in Japan, Training Course on Prevention and Crisis Management of Biological Terrorism, Malaysia, 2005.7.
  - 16) Ohkusa Y, Tammy S , Sugiura H, et al., Syndromic Surveillance as a Control Measure for Bioterrorism Attack, the 5th World Congress of International Health Economics Association, 2005.7.
  - 17) Shigematsu M, Special Session: Tsunami - Personal Experiences of Medical Personnel in Affected Areas; Banda Aceh: Qualitative Rapid Assessment for Infectious Diseases and Identification of Further Needs of Support . 9<sup>th</sup> Conference of the International Society of Travel Medicine , 2005.5 .
  - 18) Shigematsu M ,Okabe N, Trends of statutory reporting cases of travel associated Typhoid fever, paratyphoid fever, cholera, and HAV infection in recent five years in Japan . 9<sup>th</sup> Conference of the International Society of Travel Medicine , 2005.5 .
  - 19) Shigematsu M, Public Health Elements for Control and Prevention of Transmissions . The Second International Symposium on Transmission Models for Infectious Diseases-Preparing for Pandemic Influenza, 2006.1 .
  - 20) Ohkusa Y, Sugawara T, Sugiura H, Kawaguchi Y, Shigematsu M, Taniguchi K, Okabe N, Experimental Syndromic Surveillance In Japan using Three Aspects: OTC, Outpatient Visits and Ambulance Transfer, 2006.3 .
  - 21) Taniguchi K, Preparedness and Response for Bioterrorism. International symposium for counter-bioterrorism, Busan, Korea, 2005.7.
  - 22) Kimura M, Kawakami K, Hashimoto M, Hamada M. Malaria prevention and stand-by emergency treatment among Japanese travelers. 9<sup>th</sup> Conference of the International Society of Travel Medicine. Lisbon, 2005.
  - 23) Kimura M. Overview and update on the development of travel medicine in Japan. GeoSentinel Site Directors' Meeting, Cascais, 2005.
  - 24) Yoshikawa H, Kimura M, Ogawa M, Rolain J-M, Raoult D, Laboratory confirmed Mediterranean spotted fever in a Japanese traveler to Kenya. 4<sup>th</sup> International Conference on Rickettsiae and Rickettsial Diseases. Logroño (La Rioja), 2005
  - 25) Kimura M, Nakamura T, Nawa Y. Evaluation of intravenous metronidazole treatment in severe amebiasis. 16th International Congress for Tropical Medicine and Malaria. Marseille, 2005.
  - 26) Yasui Y. About infectious disease surveillance in Japan, influenza in particular. The Second Workshop on Public Health – Public Health in the 21st Century. Beijing, 2005.9.
- 2. 国内学会**
- 1) 上野久美,中島一敏,多屋馨子,岡部信彦「感染症発生動向調査における5年間の地域別麻疹流行状況の解析」第9回日本ワクチン学会,大阪府大阪市,2005.10 .
  - 2) 上野久美,多田有希,多屋馨子,岡部信彦「感染症発生動向調査における急性脳炎の疫学」第37回日本小児感染症学会,三重県津市,2005.11 .
  - 3) 佐藤 弘,多屋馨子,逸見佳美,岡部信彦「測定方法による風疹抗体価の比較検討及びその臨床応用について」第46回日本臨床ウイルス学会,福岡県福岡市,2005.6 .
  - 4) 佐藤 弘,多屋馨子,新井 智,高崎智彦,倉根一郎,岡部信彦,担当都道府県ならびに都道府県衛生研究所「ヒトおよびブタにおける全国の日本脳炎抗体保有状況(感染症流行予測調査事業より)」第9回日本ワクチン学会,大阪府大阪市,2005.10 .
  - 5) 佐藤 弘,多屋馨子,堀内善信,岡部信彦,担当都道府県ならびに都道府県衛生研究所「感染症流行予測調査事業による百日咳,ジフテリア,破傷風の抗体保有状況調査」第37回日本小児感染症学会,三重県津市,2005.11 .
  - 6) 多屋馨子「MR ワクチン法改正に伴う最新情報 -

## 感染症情報センター

- その他の予防接種情報を含めて - 」船橋市医師会  
(小児科医会・内科医会)講演会,2006.3 .
- 7) 多屋馨子「最新の予防接種の話題」山梨県小児科  
医会学術集会,2006.3 .
  - 8) 多屋馨子「第二分科会 保育所における感染症対  
策」平成 17 年度保育所保育・保健推進セミナ  
ー,2006.3 .
  - 9) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題につい  
て」横浜市医師会,横浜市医師会学校医部会,2006.3 .
  - 10) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題」藤戸田  
市医師会予防接種学術講演会,2006.3 .
  - 11) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題」豊島区  
医師会講演会,2006.2 .
  - 12) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題」大宮医  
師会・大宮小児科医会講演会,2006.2 .
  - 13) 多屋馨子「最新の予防接種の話題」水鏡会講演  
会,2006.2 .
  - 14) 多屋馨子「感染症を予防するために-予防接種の  
役割- ~ 子ども達と先生方を感染症から守るため  
に~」練馬区保健講演会,2006.1 .
  - 15) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題」高崎市  
小児科医会,2006.1 .
  - 16) 安井良則,多屋馨子,高木弘隆「集団保育施設にお  
ける感染症について」文京区保育園講演会,2006.1 .
  - 17) 多屋馨子「集団保育施設における感染症について  
-ノロウイルスと新しい予防接種制度」文京区保  
育園講演会,2006.1 .
  - 18) 多屋馨子「実地医家のためのワクチン接種の実際  
-インフルエンザワクチンを中心として-」尼崎  
市内科医会,2006.1 .
  - 19) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題」京都市  
市医会臨時総会,2005.12 .
  - 20) 多屋馨子「感染症だより」第 534 回小児科学会東  
京都地方会講話会,2005.12.
  - 21) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題」伊勢崎  
市佐波郡医師会講演会,2005.12 .
  - 22) 鈴木葉子,多屋馨子,大山卓昭,岡部信彦「わが国の  
手足口病,ヘルパンギーナ,エンテロウイルス感  
染症の重症化例に関する検討 重症化に関連する  
リスク因子の検討」第 37 回小児感染症学会 .  
2005.11 .
  - 23) 多屋馨子「予防接種に関する最新の話題につい  
て」平成 17 年度感染症危機管理・予防接種実務  
担当者研修会,2005.11 .
  - 24) 多屋馨子「サーベイランスの見方と保育園での感  
染症対策 ~ 予防接種で防げる感染症は防ぎたい  
子ども達と先生方を守るために~」新宿区保育園  
講演会,2005.11 .
  - 25) 多屋馨子「予防接種 最新の話題」草加・八潮医  
師会 10 月学術講演会,2005.10 .
  - 26) 多屋馨子「予防接種の最近の話題」南多摩地区病  
診連携懇話会,2005.10 .
  - 27) 多屋馨子,佐藤 弘,上野久美,荒木和子,森兼啓太,  
吉川哲史,中野貴司,庵原俊昭,堤 裕幸,浅野喜造,  
神谷 齊,岡部信彦「水痘、ムンプスによる入院例  
に関する検討 ~ 全国アンケート調査より ~」第 9  
回日本ワクチン学会 . 2005.10.
  - 28) 馬場宏一,多屋馨子,奥野良信,神谷 齊,岡部信彦,  
厚生労働科学研究「ワクチンの意義と安全性の健  
康教育と情報伝達に関する研究」班:「学校伝染  
病などの感染症と予防接種に関するアンケート」  
の試み-ワクチンの施設内流行阻止効果を検証す  
る-第 9 回日本ワクチン学会シンポジウム,2005.10 .
  - 29) 堀内善信,豊泉裕美,片岡紀代,落合雅樹,山本明彦,  
蒲池一成,高橋元秀,多屋馨子,佐藤 弘,岡部信彦,  
荒川宜親,倉田 毅「ワクチンの安全性・有効性と  
評価システム」第 9 回日本ワクチン学会,2005.10 .
  - 30) 多屋馨子「予防接種に関する最近のトピックス」  
岡崎市医師会予防接種協力医講演会,2005.10 .
  - 31) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題」宇都宮  
市 Wednesday 会,2005.9 .
  - 32) 多屋馨子「予防接種に関する最近の話題」伊丹市  
医師会講演会,2005.9 .
  - 33) Tanaka-Taya K, Hashimoto M, Okabe N, Multiple  
simultaneous vaccinations among Japanese travelers,  
学友会セミナー,2005.7 .
  - 34) 多屋馨子「予防接種に関する最新の話題」第 1 回  
大阪小児感染症研究会,2005.7 .
  - 35) 多屋馨子「子どもと感染症 ~ 保育園の子ども達と  
先生方を感染症から守りたい ~」東京都保育園協  
会講演会,2005.7.
  - 36) 多屋馨子「心臓移植 移植後の治療・フォローア  
ップの問題点 Vaccination for the transplant  
recipients」第 41 回日本小児循環器学会,2005.7 .
  - 37) 越田理恵,中村英夫,五十嵐登,多屋馨子,岡部信彦  
「金沢市の水痘・流行性耳下腺炎の流行状況と小  
児科医への予防接種に関する意識調査」第 284 回  
日本小児科学会北陸地方会,2005.6 .
  - 38) 多屋馨子「わが国の風疹および先天性風疹症候群  
(congenital rubella syndrome:CRS)の現状と対策」

- 第 23 回日本産婦人科感染症研究会学術講演会シンポジウム 2 先天性風疹症候群－急増への対策,2005.5 .
- 39) 多屋馨子「海外からの新興感染症と集団感染への対応」第 41 回大阪小児保健研究会,2005.4 .
- 40) 山崎貢,松本昌門,松井博範,栄賢司,岩出義人,福島博,八柳潤,尾畑浩魅,甲斐明美,荒川英二,伊藤健一郎「腸炎ピブリオの耐熱性溶血毒類似毒素 (TDH-related hemolysin: TRH) 遺伝子型の違いによる TRH 溶血活性及び TDH 産生量の差に関する検討」第 79 回日本感染症学会総会,名古屋,2005.4/14 ~ 15.
- 41) 岩崎知美,森田耕司,渡辺登,金森政人,倉園貴至,山口正則,鈴木理恵子,沖津忠行,伊藤健一郎「下痢原性大腸菌の *eae* 遺伝子を中心とした病原性関連遺伝子多型」第 79 回日本細菌学会総会,金沢,2006.3/29 ~ 31.
- 42) 陸彦,伊予田淳,伊藤健一郎,齋藤剛仁,渡邊治雄「LEE 非保有型 EHEC に存在する新規免疫グロブリン結合蛋白質は宿主細胞への接着因子として機能する」第 79 回日本細菌学会総会,金沢,2006.3/29 ~ 31.
- 43) 西尾治「食品を介するノロウイルスによる食中毒の現状と対策」第 46 回日本臨床ウイルス学会,福岡県福岡市,2005. 6.
- 44) 杉枝正明,愛木智香子,秋山美穂,西尾治「*Norovirus* による集団発生事例について」第 46 回日本臨床ウイルス学会,福岡県福岡市,2005.6.
- 45) 杉枝正明,稲吉恵,足立聡,三輪好伸,増田高志,愛木智香子,秋山美穂,西尾治「*Norovirus* による集団発生事例について」平成 17 年度地方衛生研究所全国協議会 第 20 回関東甲信静支部ウイルス研究部会,群馬県前橋市,2005.9.
- 46) 原俊吉,大石陽子,山上隆也,小澤茂,西尾治「2004 年度冬季に山梨県内の高齢者施設で発生したノロウイルス急性胃腸炎集団事例」平成 17 年度地方衛生研究所全国協議会 第 20 回関東甲信静支部ウイルス研究部会,群馬県前橋市,2005.9.
- 47) 齋藤美香,木村博一,塚越博之,星野利得,小澤邦壽,島田慎一,瀬川由加里,貞升健志,長谷川道弥,新川奈緒美,藏元強,西尾治「2004 年に本邦で検出された風疹ウイルスの分子疫学」平成 17 年度地方衛生研究所全国協議会 第 20 回関東甲信静支部ウイルス研究部会,群馬県前橋市,2005.9.
- 48) 秋山美穂,愛木智香子,西尾治,山下育孝,大瀬戸光明,杉枝正明,古屋由美子,田中俊光,宇宿秀三「輸入食品のノロウイルス汚染状況について」日本食品衛生学会第 90 回学術講演会,埼玉県さいたま市,2005.10.
- 49) 西尾治「ノロウイルスによる感染症,食中毒の現状と予防」平成 17 年度獣医公衆衛生講習会,山口県山口市,2005.11.
- 50) 山下育孝,豊嶋千俊,近藤玲子,大瀬戸光明,杉枝正明,古屋由美子,田中俊光,愛木智香子,秋山美穂,西尾治「輸入生鮮魚介類及び急性胃腸炎患者から検出されたノロウイルス (NV) の分子疫学的解析」第 53 回日本ウイルス学会学術集会,神奈川県横浜市,2005.11.
- 51) 西田知子,中尾利器,岩田祐之,秋山美穂,愛木智香子,西尾治「山口県内で発生したノロウイルスによる胃腸炎」第 53 回日本ウイルス学会学術集会,神奈川県横浜市,2005.11.
- 52) 古屋由美子,片山丘,宮原香代子,西尾治「小学校におけるサポウイルスの集団発生」第 53 回日本ウイルス学会学術集会,神奈川県横浜市,2005.11.
- 53) 秋山美穂,愛木智香子,杉枝正明,入谷展弘,吉澄志磨,西田知子,田中俊光,中込治,岡部信彦,西尾治「ノロウイルスの Mexico 株類似リコンビナント株の国内での検出状況」第 53 回日本ウイルス学会学術集会,神奈川県横浜市,2005.11.
- 54) 愛木智香子,杉枝正明,山下育孝,福田伸治,吉澄志磨,西田知子,田中俊光,岩切章,田村務,大矢英紀,秋山美穂,岡部信彦,西尾治「欧米で流行している G2/4 変異型ノロウイルスの国内での検出状況」第 53 回日本ウイルス学会学術集会,神奈川県横浜市,2005.11.
- 55) 松岡由美子,平野敬之,小河正雄,愛木智香子,秋山美穂,西尾治「熊本市,佐賀県,大分県で検出されたノロウイルス (NV) の分子疫学について」第 53 回日本ウイルス学会学術集会,神奈川県横浜市,2005.11.
- 56) 大石絢子,松井清彦,藤本嗣人,武下文彦,Sakumar Saha,齋藤正明,西尾治,奥田研爾「2000 から 2003 年の 3 年間における横浜市内のアデノウイルス感染状況」第 53 回日本ウイルス学会学術集会,神奈川県横浜市,2005.11.
- 57) 森兼啓太「SSI サーベイランスの実際 - 外科医の協力を得るには - 」第 79 回日本感染症学会・

- 教育セミナー,名古屋市,講演,2005.4.15
- 58) 森兼啓太「SSI サーベイランスの実際」癌研究会  
付属有明病院院内感染対策セミナー,東京,講演,  
2005.4.21.
- 59) 森兼啓太「院内感染対策の基礎と実際」第 13 回  
県央・西蒲感染症研究会,新潟県燕市,特別講演,  
2005.4.22 .
- 60) 森兼啓太「SSI サーベイランスの実際」東京都済  
生会中央病院院内感染対策講習会,東京,講演,  
2005.4.26.
- 61) 森兼啓太「経路別感染予防策と感染症法」川越市  
保健所院内感染対策研修会,埼玉県川越市,講演  
2005. 5.26.
- 62) 森兼啓太「院内感染って何?」洗心洞大学市民講  
座,横浜市,講演, 2005.6.29.
- 63) 森兼啓太「最近の院内感染制御の動向と外科手術  
部位感染の防止」愛媛大学院内感染防止研修会,  
愛媛県東温市,講演, 2005.7.1.
- 64) 森兼啓太「院内感染サーベイランスとアウトブレ  
イク対応」川越市保健所院内感染対策研修会,埼玉  
県川越市,講演, 2005.7.7.
- 65) 森兼啓太「周術期の感染対策」癌研究会付属有明  
病院院内感染対策セミナー,東京,講演, 2005.7.13.
- 66) 森兼啓太「サーベイランスで院内感染を減らそ  
う!」日本大学医学部第 1 回手術部位感染対策セ  
ミナー,東京,講演, 2005.7.14.
- 67) 森兼啓太「SSI 防止のスタンダード: ガイドライ  
ンとサーベイランス」 埼玉医科大学卒後教育委  
員会研修会,埼玉県毛呂山町,特別講演, 2005.7.19.
- 68) 森兼啓太「SSI 防止ガイドラインとサーベイラン  
ス - その建前と本音 - 」第 60 回日本消化器外科  
学会・イブニングセミナー,東京,講演, 2005.7.21.
- 69) 森兼啓太「米国にみる SSI 対策の現状と将来」第  
60 回日本消化器外科学会・ランチョンセミナー,  
東京,講演, 2005.7.22.
- 70) 森兼啓太「最近の院内感染制御の動向と外科手術  
部位感染の防止」藤枝市立総合病院院内感染対策  
研修会,静岡県藤枝市,講演, 2005.7.26.
- 71) 森兼啓太「院内感染は減らせるのか? - 対策の基  
本と周術期感染対策 - 」君津中央病院院内感染対  
策講習会,千葉県木更津市,講演, 2005. 9.7 .
- 72) 森兼啓太「鳥インフルエンザ - 新型インフルエン  
ザ大流行の序章か? - 」第 11 回高知県感染症研  
究会,高知県高知市,特別講演, 2005.9.16.
- 73) 森兼啓太「サーベイランスで SSI を減らそう!」  
徳島大学病院手術部位感染対策セミナー,徳島県  
徳島市,講演, 2005.9.22.
- 74) 森兼啓太「日本病院感染サーベイランスの現状と  
将来」第 7 回臨床外科共同研究会リスクマネジメ  
ント分科会,大阪市,講演, 2005.9.24.
- 75) 森兼啓太「SSI 防止対策の取り組み」 東邦大学  
大森病院手術部位感染対策セミナー,東京,講演,  
2005.10.3.
- 76) 森兼啓太「手術部位感染の減少を目指して - 手術  
部スタッフの果たす役割 - 」第 27 回日本手術医  
学会総会,東京,招請講演, 2005.10.8.
- 77) 森兼啓太「職業感染のない安全な職場を目指し  
て」世田谷区医師会・院内環境整備推進講演会,  
東京,講演, 2005.10.12.
- 78) 森兼啓太「感染制御: 米国 CDC の動向と日本の  
トピックス」第 34 回日本医療福祉設備学会・ラ  
ンチョンセミナー,東京,講演, 2005.11. 9.
- 79) 森兼啓太「介護施設での施設内感染事例」第 34  
回日本医療福祉設備学会,東京,シンポジウム,  
2005. 11.9.
- 80) 森兼啓太「鳥インフルエンザ 第 11 回東北院内  
感染対策研究会」仙台市,講演, 2005.11.12.
- 81) 森兼啓太「術後感染の減少を目指して」信州大学  
医学部感染防止講演会,長野県松本市,講演, 2005.  
12.9.
- 82) 森兼啓太「手術部位感染の減少を目指して」第 18  
回信州日和見感染懇話会,長野県松本市,特別講演,  
2005. 12.10.
- 83) 森兼啓太「新型インフルエンザ」川越市保健所・  
新型インフルエンザ研修会,埼玉県川越市,講演,  
2005. 12.20.
- 84) 森兼啓太「手術部位感染の減少を目指して」自治  
医科大学大学院特別講演会,栃木県下野市,講演,  
2006.1.12.
- 85) 森兼啓太「手術部位感染対策」 国立病院機構院  
内感染対策研修会, 熊本市,講演, 2006.1.25.
- 86) 森兼啓太「最近の院内感染対策の潮流 - 手術部位  
感染対策の実践から - 」富山大学感染予防講習会,  
富山市,講演, 2006.1.27.
- 87) 森兼啓太「病院感染制御の職種間連携 - 各々の特  
性を生かして - 」第 27 回日本病院薬剤師会近畿  
学術大会,和歌山市,講演, 2006.1.29.
- 88) 森兼啓太「鳥インフルエンザと新型インフルエン  
ザ」福井県新型インフルエンザ対策研修会,福井市,  
講演, 2006. 2.7.

- 89) 森兼啓太「院内感染サーベイランスについて」第19回公衆衛生情報研究協議会研究会,秋田市,講演,2006.2.9.
- 90) 森兼啓太「感染症と感染制御:日本は先進国なのか」Bayer SSI Symposium in Mie,三重県津市,特別講演,2006.2.17.
- 91) 森兼啓太「アメリカ合衆国における病院感染制御の現状」第21回日本環境感染学会学術総会,東京,講演,2006.2.24.
- 92) 森兼啓太「CDC ガイドラインを考える」第21回日本環境感染学会学術総会,東京,シンポジウム,2006.2.25.
- 93) 森兼啓太「各国の MRSA 対策の現状」第21回日本環境感染学会学術総会,東京,シンポジウム,2006.2.25.
- 94) 森兼啓太,谷口清州,岡部信彦「厚生労働省事業「院内感染対策サーベイランス」における解析結果の還元・提供に関する研究」第21回日本環境感染学会学術総会,東京,ポスター,2006.2.25.
- 95) 森兼啓太「インフルエンザ対策」第21回日本環境感染学会学術総会・ICP 講習会,東京,2006.2.25.
- 96) 森兼啓太「手術部位感染対策およびそのサーベイランス」越谷市立病院院内感染対策研修会,埼玉県越谷市,講演,2006.3.2.
- 97) 森兼啓太「感染制御におけるクリティカルパスの役割」第11回呼吸器クリティカルパス研究会,東京,特別講演,2006.3.25.
- 98) 森兼啓太「サーベイランスによる手術部位感染の減少」第106回日本外科学会学術集会,東京,シンポジウム,2006.3.30.
- 99) 神垣太郎他「サルモネラ症感染に関するリスク因子」(口演).第21回日本環境感染学会,東京都,2006.
- 100) 登坂直規他「O病院におけるバンコマイシン耐性腸球菌保菌者集団発生事例に関する疫学調査」(口演),第21回日本環境感染学会,東京都,2006.
- 101) 神垣太郎他「大学病院における Salmonella Enteritidis 集団発生事例」(口演),日本公衆衛生学会,北海道,2005.
- 102) 太田正樹他「秋田県で発生した急性脳炎・脳症の発症危険因子に関する解析疫学」(ポスター発表),日本公衆衛生学会,北海道,2005.
- 103) 山口亮他「新潟県、秋田県、山形県で発生した急性脳炎・脳症の記述疫学について」(ポスター発表),日本公衆衛生学会,北海道,2005.
- 104) 大日康史,杉浦弘明他7名「症状における症候群サーベイランスのための基礎的研究」第48回感染症学会中日本地方会,2005.
- 105) 西村龍夫,大日康史「Hib の疾病負担に関する検討」ワクチン学会,2005.10.
- 106) 大日康史,菅原民枝,岡部信彦「パンデミック時の抗ウイルス剤及びワクチンの使用優先順位に関する調査研究」ワクチン学会,2005.10.
- 107) 菅原民枝,大日康史他7名「水痘・ムンプス予防接種定期接種化の費用対効果分析」ワクチン学会,2005.10.
- 108) 大日康史「リアルタイム・アウトブレイク・サーベイランスシステムの研究状況とご協力のご願い」外来小児科学会,2005.8.
- 109) 大日康史,重松美加他3名「OTC 売り上げデータを用いての症候群サーベイランスの試み」第79回日本感染症学会総会,2005.4.
- 110) 西藤なるを,大日康史他4名「ML インフルエンザ流行前線情報データベース 2004/2005 シーズン報告と今後の方向性」第79回日本感染症学会総会,2005.4.
- 111) 菅原民枝,大日康史他7名「水痘・ムンプス予防接種定期接種化の費用対効果分析」感染症学会,2005.4.
- 112) 大日康史,西村龍夫「Hib の疾病負担に関する検討」外来小児科学会,2005.4.
- 113) 谷口清州「SARS とトリ型インフルエンザへの対応」第36回日本小児感染症学会,第20回ICD講習会・名古屋,2005.4.
- 114) 谷口清州「最近の感染症の話題～インフルエンザを中心に」人間狭山医師会感染症研究会,埼玉,2005.4.
- 115) 谷口清州「高齢者施設における感染症対策～ノロウイルスを中心に」福山市感染症研究会,福山市,2005.5.
- 116) 谷口清州「国際的視野から見た最近のインフルエンザの動向」埼玉県感染症研究会,さいたま市,2005.7.
- 117) 谷口清州「インフルエンザのパンデミック対策と最近のトピックス」豊橋市医師会インフルエンザ講習会,豊橋市,2005.8.
- 118) 谷口清州「細菌の感染症の話題」三重県小児科医学会,津市,2005.10.
- 119) 谷口清州「鳥インフルエンザはヒトの世界に侵入するか」37回小児感染症学会,津市,2005.11.

## 感染症情報センター

- 120) 谷口清州「感染症危機管理」 宮城県健康危機管理研修会,仙台市,2006.1.
- 121) 谷口清州「鳥インフルエンザと新型インフルエンザ」第 33 回集中治療医学会学術集会,大阪市,2006.3.
- 122) 中島一敏 「わが国における風疹流行と先天性風疹症候群の発症状況と緊急提言」 第 108 回日本小児科学会特別講演「風疹の流行と先天性風疹症候群増加の危機における緊急提言」東京,2005.
- 123) 中島一敏,多田有希,多屋馨子,岡部信彦「2000～2005 年の風疹及び先天性風疹症候群の発生動向 -」感染症発生動向調査より - 第 9 回ワクチン学会,大阪,2005.10.
- 124) 中島一敏 「スマトラ沖地震災害における感染症対策(シンポジウム)」 第 49 回全国環境衛生大会シンポジウム「災害発生と生活衛生」,新潟,2005.10.
- 125) 中島一敏 「社会福祉施設における感染症の基礎知識」 大分県社会福祉施設看護担当研修会,大分,講演,2005.6.
- 126) 中島一敏「日本と世界の感染症と対策」国立保健医療科学院研修 和光,講演,2005.7.
- 127) 中島一敏「社会福祉施設における感染症の対策と施設内サーベイランス - 施設内症状別発生動向調査 -」大分県中津保健所感染症対策検討会,中津,講演,2005.10.
- 128) 中島一敏「高病原性鳥インフルエンザについて」 第三回日本防護服研究会学術集会,東京,講演,2006.2.
- 129) 中島一敏 「海外からの注意すべき共通感染症」 ヒトと動物の共通感染症シンポジウム,東京,2006.3.
- 130) 中島一敏「茨城における抗高病原性鳥インフルエンザ A/H5N2 血清抗体検査の意義」 第 7 回生物兵器対処セミナー,東京,講演,2006.3.
- 131) 重松美加「パイオテロ対策会議からの報告」感染症アウトブレイクの脅威に対処するための数理モデリングに関する研究集会,東京,2005.8.
- 132) 村上義孝,橋本修二,川戸美由紀,泉田美知子,永井正規,多田有希,重松美加,谷口清州「感染症発生動向調査に基づく検討 第 1 報 都道府県別警報基準値の可能性」第 64 回日本公衆衛生学会総会,札幌,2005.9.
- 133) 川戸美由紀,橋本修二,村上義孝,泉田美知子,永井正規,多田有希,重松美加,谷口清州「感染症発生動向調査に基づく検討」第 2 報 都道府県別罹患数推計,第 64 回日本公衆衛生学会総会,札幌,2005.9.
- 134) 泉田美知子,永井正規,村上義孝,橋本修二,川戸美由紀,多田有希,重松美加,谷口清州「感染症発生動向調査に基づく検討 第 3 報 基幹定点対象疾患の情報の有効活用方法の検討」第 64 回日本公衆衛生学会総会,札幌,2005.9.
- 135) 橋本修二,川戸美由紀,村上義孝,泉田美知子,永井正規,多田有希,重松美加,谷口清州「感染症発生動向調査に基づく検討 第 4 報 全数把握対象疾患の流行状況」第 64 回日本公衆衛生学会総会,札幌,2005.9.
- 136) 重松美加「SARS and Avian influenza in Japan」国際厚生事業団(JICWELS)セミナー,東京,講演2005.10.
- 137) 重松美加「新興・再興感染症の動向」平成 17 年度 第 2 回健康危機管理保健所長等研修会,和光,講演,2005.10.
- 138) 安藤秀二,小川基彦,重松美加,岸本寿男,山本徳栄「国内のリケッチア感染症の現状(2005 年)」第 12 回リケッチア研究会・第 23 回日本クラミジア研究会,東京,2005.10.
- 139) 重松美加,大日康史「パイオテロ・パンデミックにおける早期検知の手法:症候群サーベイランスの試み」第 5 回日本バイオセーフティ学会総会,横浜,2005.11.
- 140) 重松美加「新興・再興感染症の動向」平成 17 年度 第 4 回健康危機管理保健所長等研修会,和光,講演,2006.1.
- 141) 安藤秀二,小川基彦,重松美加,山下和予,岸本寿男「日本のリケッチア感染症の現状」平成 17 年度希少感染症診断技術研修会,東京,2006.2.
- 142) 安藤秀二,小川基彦,重松美加,岸本寿男「衛生微生物技術協議会リケッチア症小委員会調査票について」平成 17 年度希少感染症診断技術研修会,東京,2006.2.
- 143) 多田有希「感染症の疫学」第 8 回国際感染症等専門家要請研修,2005.9.
- 144) 多田有希「咽頭結膜熱の感染症発生動向調査における迅速診断キットの影響」日本小児感染症学会総会,学術集会,2005.11.
- 145) 多田有希「感染症への対応」平成 17 年度 児童生徒の心身の健康問題に対応するための指導者の養成を目的とした研修,独立行政法人 教員研

- 修センター,2005.12.
- 146) 多田有希「感染症発生動向調査(海外の動向と日本の状況)」第21回日本感染症学会シンポジウム「感染症対策の危機に挑戦する電子化システム」,2006.2.
- 147) 木村幹男,川上桂子,浜田 勝,橋本迪子「日本人渡航者におけるマラリア予防およびスタンバイ治療の実態と問題点」第74回日本寄生虫学会大会,2005.
- 148) 西村祐貴子,矢野亜紀子,西山優子,奥田洋平,金 惠淑,綿矢有佑,木村幹男,古田隆久「メフロキン耐性熱帯熱マラリア原虫の耐性化機構の解析」第74回日本寄生虫学会大会,2005.
- 149) 古田隆久,河津信一郎,狩野繁之,木村幹男,審良静男,渡辺直熙「マラリア原虫の Peroxiredoxin による Toll-like receptor 4 の活性化」第74回日本寄生虫学会大会,2005.
- 150) 菊池 均,木村幹男「第9回国際旅行医学会大会での予防接種関連トピックスについて」第9回海外渡航者健康学会,2005.
- 151) 木村幹男. シンポジウム I「旅行医学とイミグランドディスンの黎明」. 旅行医学における migrant medicine. 第46回日本熱帯医学会大会, 2005.
- 152) 安井良則,藤井史敏,柴田仙子,多屋馨子,岡部信彦「堺市の予防接種対策について保育施設における水痘・ムンプスの罹患状況とワクチン接種状況に関する検討」日本ワクチン学会, 2005.10.
- 153) 安井良則,藤井史敏「BCG ワクチン直接接種に関する堺市の対応について」日本ワクチン学会, 2005.10.
- 154) 安井良則「日本国内の鳥インフルエンザについて」東北ブロック感染症危機管理会議,2005.11.
- 155) 安井良則「結核対策及び院内感染について」公立昭和病院院内感染研修会,2005.5.
- 156) 安井良則「保育施設等乳幼児の集団生活の場における感染症について」平成18年度保育所保健・衛生専門研修会,2005.7.
- 157) 安井良則「院内感染対策について」同仁会研修会,2005.7.
- 158) 安井良則「高齢者施設における感染症(結核対策・疥癬を中心に)」高齢者施設における感染症予防研修会,川越市保健所,2005.8.
- 159) 安井良則「高齢者施設における感染症(ウイルス感染)」高齢者施設における感染症予防研修会,川越市保健所,2005.10.
- 160) 安井良則「2005年予防接種法改正における麻疹・風疹ワクチン運用の変更点及び問題点」小平市医師会研修会,2005.10.
- 161) 安井良則「障害児施設における感染症対策について」もず園・つばみ園講演会,2005.10.
- 162) 安井良則「高齢者施設における感染症」高齢者施設における感染症予防研修会,川越市保健所,2005.10.
- 163) 安井良則「SARS & インフルエンザ」広島市佐伯区医師会,2005.11.
- 164) 安井良則「乳幼児の集団生活施設における感染症対策について」松山市保育士研修会, 2005.11.
- 165) 安井良則「2005年予防接種法改正における麻疹・風疹ワクチン運用の変更点及び問題点」新潟市医師会研修会,2005.11.
- 166) 安井良則「水と空気を媒介する感染症について」東京都特別区環境衛生監視研修会,2005.12.
- 167) 安井良則「インフルエンザ(鳥インフルエンザ、新型インフルエンザを含めて)」堺市市民講座 2005.12.
- 168) 安井良則「インフルエンザ」文京区保育園講習会, 2006.1.
- 169) 安井良則「インフルエンザ(鳥インフルエンザ、新型インフルエンザを含めて)」世田谷区医師会研修会, 2006.1.
- 170) 安井良則「新型インフルエンザ」近畿中央胸部疾患センター研修会, 2006.2.
- 171) 安井良則「2005年予防接種法改正における麻疹・風疹ワクチン運用の変更点及び問題点」多摩小児感染症・免疫研究会,2006.2.
- 172) 安井良則「2005年予防接種法改正における麻疹・風疹ワクチン運用の変更点及び問題点」東京都北区医師会研修会,2006.2.
- 173) 安井良則「感染性胃腸炎の発生動向と病態および感染経路について」日本環境感染症学会 ICP 講習会, 2006.2.
- 174) 安井良則「インフルエンザ(鳥インフルエンザと新型インフルエンザ)」堺市医師会研修会,2006.3.
- 175) 安井良則「インフルエンザ(鳥インフルエンザと新型インフルエンザ)」山形県村山保健所感染症防疫研修会,2006.3.
- 176) 山下和予「病原体サーベイランスの現状と課題」地域における病原体サーベイランスに関する講演会,埼玉県さいたま市,2005.10.
- 177) 山下和予「感染症サーベイランスから見たウイル

## 感染症情報センター

ス性下痢症」第 37 回日本小児感染症学会ワークショップ 1「ウイルス性下痢症 - 特にノロウイルス感染症の動向 - 」,三重県津市,2005.11.

### . そ の 他

- 1) 感染症情報センター・インフルエンザ関連死亡迅速把握システム 03/04 年シーズン,04/05 年シーズングラフ.  
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-rpd/index-rpd.html>.
- 2) 感染症情報センター・インフルエンザ情報早期把握システム, 2004 年度インフルエンザ統計情報,2003.12~2004.5 .  
<http://www.flu.msi.co.jp/graph/>.
- 3) 感染症情報センター・インフルエンザ流行レベルマップ, 2005.10.~2006.3( 8 月 8 日現在継続中),  
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/index.html>.
- 4) 感染症情報センター・高病原性鳥インフルエンザ: WHO 感染確定症例数 .  
[http://idsc.nih.go.jp/disease/avian\\_influenza/toriinf-case.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-case.html).
- 5) 感染症情報センター・高病原性鳥インフルエンザ: WHO 更新情報 .  
[http://idsc.nih.go.jp/disease/avian\\_influenza/toriinf-whoup.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-whoup.html).
- 6) 感染症情報センター・高病原性鳥インフルエンザ: 新着情報 .  
[http://idsc.nih.go.jp/disease/avian\\_influenza/index.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/index.html).
- 7) 感染症情報センター・トリインフルエンザの分布図, 2005.4.4  
[http://idsc.nih.go.jp/disease/avian\\_influenza/toriinf-map.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/toriinf-map.html).
- 8) 感染症情報センター・インフルエンザ Q & A「一般向け」・「医療従事者向け」.(平成 17 年度版), 2005.11.  
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/fluQA/index.html>.
- 9) 感染症情報センター・インフルエンザパンデミック WHO による情報・ガイドライン,2005.4  
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/pandemic-who.html>.
- 10) 佐藤弘,丹生隆,上野久美,北本理恵,荒木和子,新井智,多屋馨子 .「全国日本脳炎ウイルス抗体保有状況調査」第 1 報: 2005 年 7 月 4 日、第 17 報: 2005(12/18),  
<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Smenu.html>.
- 11) 佐藤弘,丹生隆,上野久美,北本理恵,荒木和子,新井智,多屋馨子「インフルエンザ HI 抗体保有状況(速報)」第 1 報: 2005.(11/29),第 2 報: 2005.(12/26),<http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Flumenu.html>.
- 12) 松岡静香,多屋馨子,佐藤 弘,上野久美,岡部信彦「日本の定期/任意予防接種スケジュール」2005.(4/1-7/28) .  
<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/GIF/JP2005new.gif>
- 13) 松岡静香,多屋馨子,佐藤 弘,上野久美,岡部信彦「日本の定期/任意予防接種スケジュール 2005.(7/29 以降)」  
<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/ImmJP-050729rev.gif>
- 14) 松岡静香,多屋馨子,佐藤 弘,上野久美,岡部信彦,Immunization schedule, Japan 2005(Apr.1-Jul.28) .  
<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/GIF/EN-new.gif>
- 15) 松岡静香,多屋馨子,佐藤 弘,上野久美,岡部信彦,Immunization schedule, Japan 2005(Jul.29-) .  
[http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/ImmEN\\_050729rev.gif](http://idsc.nih.go.jp/vaccine/dschedule/ImmEN_050729rev.gif)
- 16) 松岡静香,多屋馨子,岡部信彦 . 麻疹・風疹ワクチンキャンペーンポスター,  
<http://idsc.nih.go.jp/vaccine/cpn05-06.html>